

研究所 所報

2024年2月 No.167

安心して豊かな交流にあふれた生活が
できる社会をめざして
～3つの視点による平和教育実践集～



静岡県教職員組合立教育研究所

国際連帯と平和教育研究委員会



研究所 HP

目 次

巻頭言 未来をひらき希望をつむぐ平和教育を……………	2
共同研究者 伊藤 恭彦	
平和のための国際連帯—その方法論を求めて—……………	4
共同研究者 加治 宏基	
実践1 外国の文化や人々の生活に関心をもつ子どもを育てるために……………	6
小学校4年道徳科、5年社会科 松山 侑樹（浜松市立佐鳴台小学校）	
実践2 グローバルな視点をもった子どもたちをめざして……………	10
小学校4年・5年総合的な学習の時間、4・5・6年特別活動 5年道徳科・音楽科、6年社会科	
關野 真理（函南町立西小学校）	
実践3 多面的な視点での国際理解から、社会と自分の繋がりを考え、行動する子の 育成～「SDGsの眼鏡をかけて、世界を変える第1歩を！」の実践から～ ……………	14
小学校5年 総合的な学習の時間	
柳澤 佑介（藤枝市立青島東小学校）	
実践4 子どもが気付く日本の誇り……………	18
小学校5・6年 社会科 岩崎 智宏（長泉町立長泉小学校）	
実践5 自他を尊重して伝え合う力……………	22
小学校5・6年 外国語科 金田あゆみ（掛川市立第二小学校）	
実践6 対話から平和的解決へ……………	26
中学校1・2年 学級活動 三宅 克樹（湖西市立新居中学校）	
実践7 委員会活動から広がる「世界市民教育」……………	30
中学校 委員会活動 山田 信彦（三島市立北中学校）	
2年間の研究をふり返って……………	34

未来をひらき希望をつむぐ平和教育を



共同研究者 伊藤 恭彦 (名古屋市立大学)

冷戦が崩壊した後の世界、特に 21 世紀初頭の世界はどちらかというところ融和と協調が拡大していました。国際連合の集団的安全保障が少しずつ機能し始め、国連を中心に世界が一丸となって平和を実現する雰囲気も拡大していきました。そのような状況の中で 2000 年の国連総会では、世界の貧困者数を半分にすることなどを目標とした「ミレニアム開発目標 (MDGs)」が採択され、2015 年には「持続可能な開発目標 (SDGs)」に継承されました。これらの目標は地球社会が協力して地球規模問題の解決のために尽力することを掲げています。世界各地では依然として紛争が起こったり、慢性的な飢餓が残されていたり、地球環境問題が深刻化したりしていましたが、世界は一体となってこれらの問題を解決できるとの希望が拡大していったことも事実です。

しかし、2020 年からはじまった新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミック、2022 年に起こったロシアによるウクライナ侵攻、そして 2023 年に起こったイスラエルによるガザ地区攻撃は世界の姿を大きく変えました。融和と協調が拡大する国際社会は一変し、分断と対立が世界を覆うようになりました。新型コロナウイルスのワクチンをめぐって富裕国は争奪戦を繰り広げました。ウクライナ侵攻とガザ地区攻撃は平和・共存が簡単に崩壊することを示し、同時に各国は自国の領土保全を最優先課題とし、そのために軍事力が切り札であることを再認識しました。地球環境問題は全人類が直面する問題ですが、例えば気候変動に対して十分な防御策をもたない貧しい人々が真っ先に被害にあっています。こうした貧しい人々の生活のほとんどは CO2 の排出量が少なくプラネタリー・バウンダリーの範囲内で生活しています。大量の CO2 を排出し豊かな生活をしている富裕国の人々は、地球温暖化の被害に対してかなり強力な防御策をもっています。地球環境問題は地球の非対称性をはっきり示しています。

21 世紀になって約四半世紀がたちましたが、現在の地球は危機的な状況におかれています。私たちはどのような地球を子どもたちに残すのでしょうか。そして、このような困難な地球社会を生き抜く子どもたちにどのような力をもってもらいたいと考えているのでしょうか。教育研究所ですすめてきた国際連帯と平和教育研究委員会では、このような問題や関心を共有しながら研究活動を行い教室での実践を深めてきました。

私たちがすすめてきた平和教育で大切にしてきたことを確認したいと思います。まず私たちは人間社会から争いごとや諍いはなくなると考えます。この点を前提に、争いが起こったときに暴力を使わずに平和的に問題を解決する力を養うこと、これが平和教育の最大の目標だと捉えてきました。

平和的に問題を解決する力を定式化すると、次の三つの力になります。第一は「他者の立場に立って、聞くことができる」、第二は「他者の立場を尊重して、自分の考えや思いを伝えることができる」、第三は「多面的なものの見方や考え方ができる」です。平和教

育と聞くと戦争を題材にした反戦教育を思い浮かべる人もたくさんいるかもしれませんが。過去に日本が行った戦争の悲惨さを伝え、戦争について深く考えることは依然として平和教育の大切な内容です。しかし、上に定式化した平和的に問題を解決する力を育てる授業は反戦教育に限定されません。さらに言えば、社会など特定の教科に限定されるわけでもありません。この所報で掲載されている所員の方々の授業実践は特定の教科に限定されていませんし、特別活動なども含んでいます。このことは平和教育がいつでも、どこでも、誰にでもできることを示しています。そんな観点で掲載されている授業実践をお読みいただきたいと思います。

掲載されている授業実践の中には一見すると「国際理解教育」と違わないように見えるものもあります。「国際理解教育」はとても大切ですが、掲載されている授業実践では、文化の違いを理解する、文化は違うが同じ人間としてわかり合える、異なる国の人々の喜びや悲しみに共感するなどの豊かな力が確実に子どもたちの中で育まれていることが確認できます。先に述べたように、現在の地球は対立と分断が全面に出ています。しかしながら、他者のことを理解し共感しようとする力をもった子どもたちは分断と対立を乗り越えることができるはずです。言い古された言葉ですが「人間はわかり合える」という言葉があります。これを実感し確認することは平和をめざす上での大前提です。マスコミでは「わかり合おう」とか「平和が大切だ」という考えが非現実的な嘲笑の対象になっています。しかし、掲載されている授業実践は、そうした嘲笑を打ち破る未来への希望をつむぐものばかりです。

またSDGsに関する実践も広がっています。SDGsは地球規模問題を解決する力をもった子どもたちを育てる上で大切です。私たちはSDGsに関する授業も単なる環境教育や技術開発によって地球規模問題が解決できることを教える技術教育に終わらせてはいけないと考えてきました。環境問題解決は先に述べた地球の非対称性を終わらせることなくしては解決できません。貧困は依然として暴力の温床です。SDGsは根底的な平和構築、地球の人々全員が平和のうちに安心して暮らせる社会構築をめざしています。だからSDGsの目標16に「平和と公正をすべての人に」がおかれているのです。日本ではSDGsについて依然として環境目標と捉える人が多いのですが、SDGsは「持続可能性」という価値と一緒に「包摂（インクルージョン）」という価値を重視しています。だから「誰一人取り残さない」ということが強調されているのはこのためです。SDGsに関する授業実践はさらに豊かに広がると思われますが、是非とも平和との関係を意識したものとして充実していただきたいと考えます。

困難な地球社会で平和も作り上げる、問題を平和的に解決する力を養う、そんな大きな目標も教室や学校のいろいろな活動を工夫することでできることを確認してください。そして平和や希望を教室で語ることが子どもたちを大きく育てることも確認してください。こうした平和教育がさらにいろいろな学校や教室で拡大していくことを期待したいと思います。

平和のための国際連帯

—その方法論を求めて—



共同研究者 加治 宏基 (愛知大学)

自己の主観性へのまなざし

私たちは、事実を「客観的に」述べることができているのでしょうか。教壇に立つ先生方からすれば、「そんなの当たり前だよ」と思われるかもしれませんね。

例えば、「1945年8月6日午前8時15分に何が起きたのか」もしくは「同8月9日午前11時2分といえば、どんな出来事を思いつくのか」とたずねられたとします。みなさんの多くが、前者に対しては「広島に原爆が落とされた」と応じ、後者も同様に「長崎に原爆が落とされた」と、難なくお答えになるでしょう。

しかし、当たり前とも思える「客観的に」述べることは、なかなか一筋縄ではいきません。なぜなら、先に示した回答は「落とされた」という特定の、すなわち被害者の視点に立つ語りだからです。言うまでもなく、「原爆を落とした」であっても、もう一方にある態度表明に他なりません。ならば、「原爆が落ちた」ではどうでしょうか。「被害者でも加害者でもなく、中立の立場を示さねば」という、きわめて恣意的な思索から出た言葉が、客観的でないことは明白ですね。

あらゆる語りは、意識的か否かを問わず話し手が選りすぐった単語の集合で、逡巡や留保を含め、その認識を反映するという意味で、いずれも主観的です。つまり、私たちが何かを話したり書いたりするときに、「主観」というフィルターを介した語りが、完全なる客観性を帯びることは不可能なのです。

国民的教養の功罪

他方で教科書もまた、純粹に客観的事実を記載したものでなく、政府や時の政権の主義主張を反映します。文部科学省が検定制度などを通じて、「国語」で記される教科書内容を実質的に規定するように、国民的教養を共有する共同体を育成すること、そして国家統合の永続性を高く維持することは、政府の重要な責務とされます。誤解を恐れずに言えば、義務教育には、バラバラの個々人を「国民」へとふ化させるインキュベーター（孵卵器）という側面もあります。

実際のところ、どんな国・地域であれ、政府当局によるバイアスがかかった情報が氾濫すれば、社会思潮・認識はおのずと同質的になるもので、それが一種の国民的教養を形成します。したがって私たち自身が、無意識のうちに官製の語りを内在化したとしても、なんら不思議ではありません。

日本政府は、尖閣諸島に関して「解決しなければならない領有権の問題はそもそも存在しない」との立場を一貫してとります。その反面で、領土教育の充実を掲げる安倍晋三政権の下では、2016年度から中学校で使用される社会科教科書の歴史・地理・公民の全分野で、北方領土、竹島、尖閣諸島に関する記述が必須となりました。ご案内のとおり、小学校高学年の教育課程でも、2020年度以降は「我が国の国土の位置」「国土の構成」「領土の範囲」を理解させるよう指針が示されています。

日本で領土教育が強化されたのに呼応して、中国では2019年から使用される高校の歴史教科書にて、尖閣諸島（中国語では「釣魚島及びその付属島嶼」）の命名時期を、従来よりも遡った1403年へと書き改めました。そもそも2010年代に顕在化したいわゆる尖閣問題をめぐって、日中双方の国民は、当該島嶼を「我が国の固有の領土」だと信じています。

私たちは国民的教養がはらむ主観性に無自覚です。そして、ふたつの相容れない国民的教養が対峙すれば、往々にして感情面や政治分野での対立へと発展しかねせん。ただし、それらを揺さぶるような学修経験をもつことで、自分のジョーシキを俯瞰的に相対化できますし、両国間の対立が不用意にエスカレートせぬよう、大きな歯止めにもなり得ます。

「ふれあい」の国際連帯

本委員会が追求し続けてきた国際連帯の本領は、この点に帰結します。そして、本委員会の歴代所員の先生方が重ねられてきた実践はまさに、自分のジョーシキを国際的なモノサシで測り、そこにポジティブな発見を見出すとりくみです。生徒たちはこうした経験値から、「ふれあい」のはじまりには必ず摩擦が生じるものだ、という皮膚感覚を培っていくでしょう。

それぞれの国民的教養が異なって当然だという姿勢、国民的教養間で生じるフリクションを自然なものと受け止める寛容さ、そしてこの課題を解決するために、他の国、文化圏などの人々との対話や交流する積極性こそが、国際連帯の核心なのです。したがって「友好、友好」を叫び日中関係のポジティブな側面のみを抽象するのではなく、立場の違いからくる対立から逃げない、地道な「ふれあい」を続けることで、摩擦は一時的のものとなります。

そして、教育実践の成果をうかがうたびに、平和を創り出していくのは私たちなんだという覚悟の種が、教育実践を受けた児童、生徒のなかにまかれたことが確認されました。各期の先生方の努力が、本委員会の大きな財産となりました。

それとともに、所員の先生方の教育実践から、私は多くを学び大学教育に反映することができました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

外国の文化や人々の生活に関心をもつ子どもを育てるために

本校には外国人児童が浜松市内の中でも特に多く、75名在籍し、全校児童の約15%を占めます。国籍も様々で、ブラジル、ペルー、フィリピン、アルゼンチン、チリ、パラグアイ、チュニジア、インド、ベトナム、中国の10か国の児童が通っています。そのため、本校の児童は外国人児童と共に生活することに対して慣れていて、外国人児童が困っていたら、助ける姿が見られます。しかし、本校の教育活動の中で、外国の文化について知るような教育活動が設定されていなかったり、外国人児童も、日本の生活に順応しようとし、母国のことを話さなかったりします。本校の日本人児童は、外国人児童と日常的に関わっているものの、彼らの母国の文化や生活について、関心が高いとは言えません。

そこで、外国の文化や生活に関心を向けてほしいと思い2つの活動を実践しました。

◇ 授業の具体 I

小学校4年生道徳科

指導者 松山 侑樹（浜松市立佐鳴台小学校）

1 主 題 名 「外国の人の生活に関心をもつことの良さは何だろう？」

内容項目 C 国際理解、国際親善

教 材 名 「世界の子どもたちのために」 教育出版

2 本時の構想

(1) 目標 外国の人々や文化に関心をもち、外国の人の生活に関心を向けて生活していこうとする意欲を高める。

(2) 学習過程

学習活動 ◎中心発問 ○発問 ・予想される児童の表れ	○教員の支援 ◇評価
<p>1 自分たちの生活を想起し、課題意識をもつ。</p> <p>○ どこの国の食べ物や家、人でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブラジル ・ わからないな。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">外国の人々や生活について関心をもつ良さについて考えよう。</p>	<p>○ 本時の学習課題をつかめるように、様々な国の食べ物や家、人が映った写真を見せる。</p>
<p>2 教材を読んで話し合う。</p> <p>○ イギリスに住む9歳の女の子、マーサちゃんはどういうことをしていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の学校の給食の写真をブログで発信していた。 ・ 食べ物が不足している国々の子どもたちに食事を提供する活動を行っているチャリティー団体へ寄付をしていた。 <p>◎ どうしてマーサちゃんは様々な活動をしていたのだろうか。大変ではないだろうか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><外国の人々や生活を知ることの楽しさ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な国の給食がわかって楽しかったから。 ・ 自分の国との違いがわかって楽しいから。 	<p>○ マーサちゃんの立場に立って考えられるように、マーサちゃんがしたことを板書に整理する。</p> <p>○ 外国の生活を知ることによって自分の思いや願いをもつことができ、それがすすんでとりくめる原動力になることに気付けるように、マーサちゃんの気持ちを構造的に板書する。</p>

<p>↗</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><外国の人々や生活に対する興味、関心></p> <ul style="list-style-type: none"> 外国の人のくらしに興味があったから。 外国の人と交流するのが好きだったから。 </div> <p>↘</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><外国の人々や生活に対する思い></p> <ul style="list-style-type: none"> 食べ物に困る子がいることが可哀そうだと思ったから。 世界の中で食べ物に困る子と、そうでない子がいるのはおかしいと思ったから。 食べ物が食べられない人のために食べ物を届けたかったから。 </div> <p>○ 外国の人々や生活について関心をもつことの良さは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本や外国の良さがわかる。 世界の人のことを考えるきっかけになる。 <p>3 めあてに対する自分の考えを深める。</p> <p>○ 今日の学習で考えたことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回出てきていない国について調べたり、外国人の子にも家でどんな生活をしているのか聞いてみたい。 将来、自分もマーサちゃんのように、世界の人々と交流したり、困っている国の人のために働いたりしたい。 	<p>◇ 主人公のマーサちゃんの行動の背景にある気持ちについて、友だちの考えも参考にしながら、主人公と自分とを重ねて考えることができたか。(ノート、発言)</p> <p>○ 道徳的価値について理解を深めることができるような質問をする。</p> <p>◇ 外国の人々や文化に対して、今後自分はどのようなことができそうか考えることができたか。(ノート、発言)</p>
--	---

3 児童のふり返り（一部抜粋）

- ぼくは、小さなことでもできることはあるなと思った。
- 今までは旅行や観光に行ってみたい国しか関心がなかったけど、色々な国に関心をもつといいことがたくさんあることを知って、もっと色々な国に関心をもとうと思った。
- わたしは、世界の国についてあまり興味がなく、考えたことがなかったけれども、この勉強をしてマーサちゃんのような苦しい生活をしている子たちのために寄付などをやってみようと思った。また、もっと世界のことについて調べてみたいと思った。

4 成果と課題

- 児童は、外国で困っている人のためにできることについて考えたり、外国の人々の生活について関心をもつことの良さに気付いたりしたと思われる。
- △ 授業後、児童が実際に外国の文化や生活について調べたり、外国の人々のためにとりくみをしたりする姿は見られなかった。授業後に、道徳科で高めた意欲を行動につなげるようなとりくみを特別活動などで設けることができればよかった。
- △ 外国人児童が多い本校の特色を、授業の中で生かすことができなかった。



写真①（授業の様子）

◇ 授業の具体Ⅱ

小学校5年生の社会科の授業

1 実践の目的

1年目に行った道徳科の授業の課題を踏まえて2年目は、実践的な活動を通して外国の文化や生活について関心を高めたいと思い、社会科の授業実践を考えた。また、本校の外国人児童が多い特色を生かした実践になるよう意識した。

2 実践概要

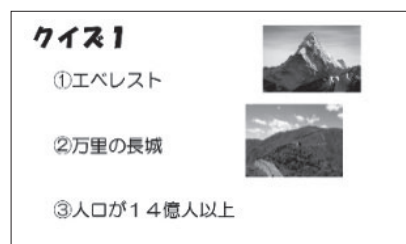
5年生社会科には、世界の生活や文化について学習する単元（世界の中の国土）がある。その単元に関連させて、外国の生活や文化をクイズにして教員が出題したり、児童がクイズを作成したりする活動を行った。

3 活動内容

（1）教員がクイズを出題する

毎回の授業の開始5分間を使い、児童にクイズを出題した。クイズは、食べ物や建物、衣服など、各国の特徴的なものが書かれたヒントをもとに、国名を答える形式にした（資料①）。クイズの形式にしたことで、意欲的に地図帳で調べたり、自分の知っている知識を友だちに話していたりする姿が多く見られた。

この活動を通して、児童は様々な国名やその国の有名なものについて知ることができた。さらに児童の外国についての関心も高めることができたと思われる。

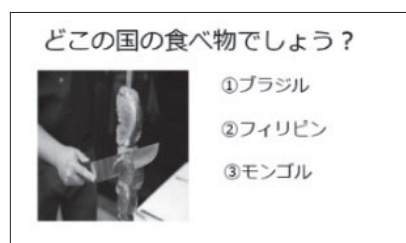


資料①

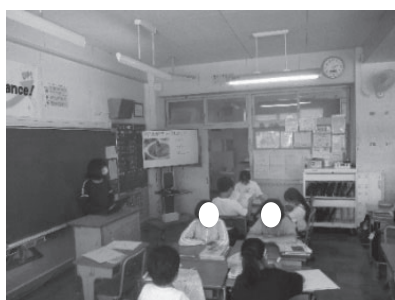
（2）児童がクイズを作り、他児童に出題する

クイズを通して外国について児童の関心が高まった様子が見られたため、次に、児童一人一人がクイズを作成する活動を行った（資料②）。児童は、自分が興味のある国の食べ物や建物などについてパソコンを用いて調べ、それがどこの国のものなのかを尋ねるクイズを作成した。本学級に在籍する5人の外国人児童は皆、母国のことをクイズにしていた。作成したクイズは毎回の授業の開始5分間を使って、他児童に出題した。

自分でパソコンを使って調べることで、さらに外国についての知識を増やしたり、関心を高めたりすることができた。



資料②



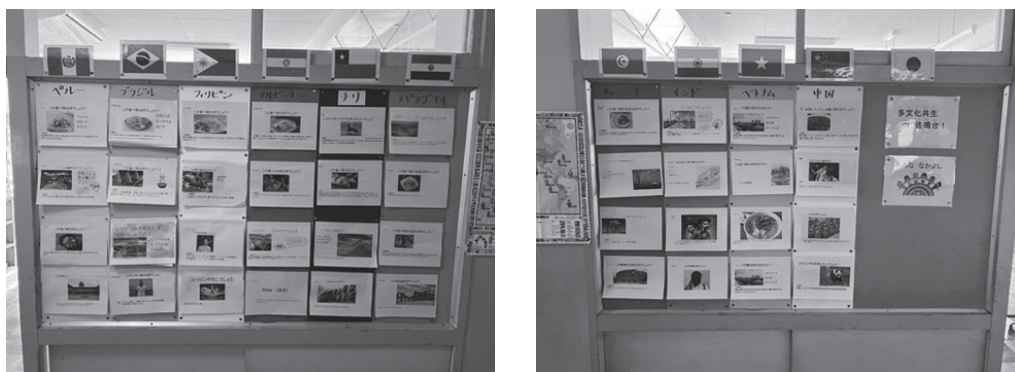
（出題している様子）



（とりくんでいる様子）

(3) 廊下掲示板に「外国クイズ」コーナーを設ける

本学級の児童だけでなく、他学級や他学年の児童にも外国クイズを通して、外国の生活や文化に関心をもってほしいと考え、空き教室の廊下の掲示板に「外国クイズ」コーナーを設けて、外国クイズを掲示した。また、外国人児童と日本人児童の関わりを増やすきっかけになるよう、掲示するクイズは、本校に通う外国人児童の母国10か国に関するものにした。授業以外でも、休み時間にもクイズを作成できるようにし、多くの問題を掲示した。休み時間に他学級や他学年の児童もクイズを見て、楽しむ姿が見られた。また、外国人児童が自分の母国のことを紹介するクイズが貼られていることを喜んでいる姿も見られた。



(廊下掲示板の様子)

4 成果と課題

- クイズ形式にしたことで、児童は楽しみながら外国の食べ物や建物などについて知ることができ、外国のことについて関心を高めることができた。
- 廊下にクイズを掲示したことで、多くの児童が外国のことについて関心を高めることができた。
- 外国人児童にとって、自分たちの母国のことを知ってもらえるよい機会となった。
- △ 児童は、外国の生活や文化について実感を伴った理解ができていない。

◇ 2年間の研究をふり返って

私は、外国人児童が多い佐鳴台小学校に赴任してから4年が経ちました。本校は、外国人児童が多いことから、日本人児童同士も、外国人児童と日本人児童もお互い仲良く生活できるように日々、指導をしてきました。そんな中、本委員会で、国際連帯教育について考える機会を得ました。本校は外国人児童が多いにも関わらず、日本人児童は外国のことについて関心が高くなかったり、外国人児童も母国のことをあまり話さなかったりすること気付くことができ、その課題を解消するための実践をすすめることができました。実践を通して、成果や課題はそれぞれありますが、今回、2年間の活動を通して、自分自身が国際連帯教育の大切さを再認識することができ、教員として指導の視野を広げる良い経験になりました。

2年間の委員会の研究はこれで終わりですが、今後出会う児童にも、国際連帯教育の視点を育むことができるように、その学校の特色を生かしながら、実践を続けていきたいと考えています。

グローバルな視点をもった子どもたちをめざして

私は、2017年から2年間青年海外協力隊としてエジプトで活動してきました。また、旅行が趣味で、37か国を旅してきました。この経験を生かしてできることとこういった経験がない先生方にもできることの両方の実践を積み重ねていきたいと考えました。この2つのとりくみを通して、すべての出来事についてグローバルな視点をもって活動・生活できる子どもたちをめざし、実践しました。

◇ 授業の具体

指導者 關野 真理（函南町立西小学校）

1 わたしの経験を生かした実践

(1) 4年総合的な学習の時間「外国の文化に親しもう」（担当学年外）

函南西小学校の4年生は、総合で国際理解の授業にとりくむ。

そこで担当学年ではないが、各クラスに2年間1時間ずつ計5時間授業に入り、世界各国の写真、動画、民族衣装、砂、楽器などを見たり、触ったり、着たりしながら、文化の違いを理解していく授業を行った。



(2) 6年社会科「世界の未来と日本の役割」～国際協力～（担当学年外）

「日本はどのような国際協力の活動をしているのでしょうか」という課題で社会科の時間にゲストティーチャーとして1時間ずつ3クラスで授業を行った。4年前のエジプトでの青年海外協力隊の活動を中心に今後6年生が仕事をした際に、その関連で国際協力ができる可能性があることを伝えることができた。



授業の中では、エジプトの小学校の体育の授業や学級会の授業の写真や動画を見せながら、私が4年前にした国際協力の活動の様子を質問に答えながら、話した。現地での生活の様子や文字のことなど文化的な側面も伝えた。現地のガラベイヤという衣装の意味を伝えたり、アラビア語での子どもたち一人一人の名前をプレゼントしたりして、いろいろな言語、文字があることも伝えた。

(3) 5年道徳科

①世界の人々と共に「ペルーは泣いている」C国際理解、国際親善

ペルーで活躍されたペルー女子バレーボールチームの監督加藤明さんの話から国際親善に努めようとする心情を育てる。

授業では、エジプトでの活動動画を見て、活動の解説を含めて話したため、国際協力をしている様子をライブ感覚で感じていたようだった。

②日本から世界へ「マインツからの便り」C国際理解、国際親善

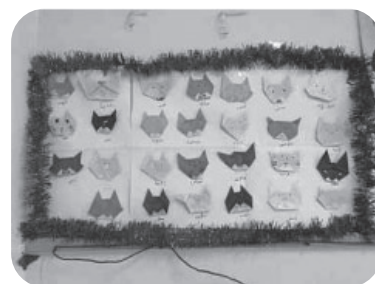
主人公の「わたし」と担任のわたしの国際交流活動を通して異なる文化や考え方の人間が共に生きていくために、自分や他の国の文化について理解し、積極的に交流を図り、国際親善に努めようとする心情を育てる。具体的な担任の国際交流活動については、写真や動画を見せながら、エジプトの文化を尊重する活動や日本の文化をエジプトで紹介する活動、日本に住んでいるまたは、来日した外国人がスムーズに活動できるような交流活動を紹介した。



エジプトの小学校でバナナおにを教えている写真



仲良しのエジプト人にエジプト料理コシャリの作り方を教えてもらった写真



学活の時間に折り紙でねこを作り、掲示物にした写真

2 どなたでも気軽にできる実践

(1) クラブ活動「国際交流クラブ」の新設

県の世界の文化出前授業に申し込み、活動した。

- ① 9月7日 ALTのジャマイカの話
- ② 9月14日 出前授業1 フィリピン
- ③ 9月28日 出前授業2 ブラジル
- ④ 10月12日 出前授業3 ベトナム
- ⑤ 10月26日 出前授業4 カナダ
- ⑥ 11月2日 出前授業5 インドネシア

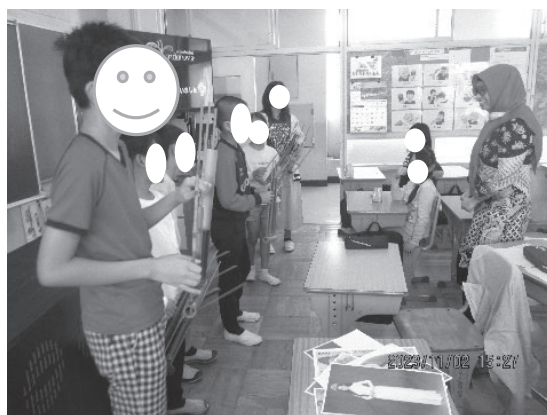
(2) 年間数回の読み聞かせ

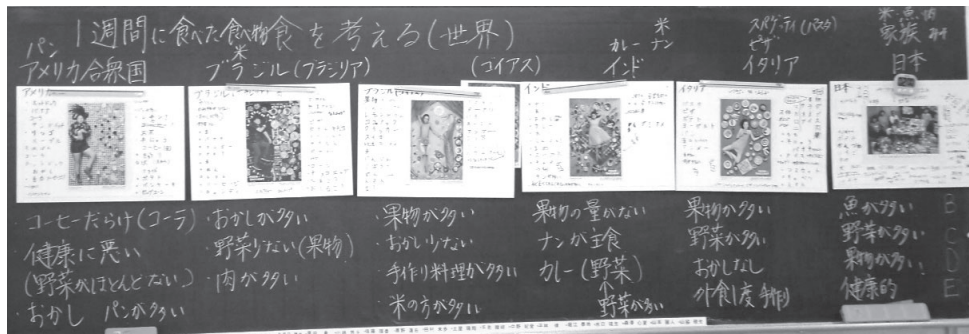
- ・池田香代子『世界がもし100人の村だったら』マガジンハウス 2001年
- ・鈴木まもる『戦争をやめた人たち』あすなろ書房 2022年
- ・たにかわしゅんたろう『せんそうしない』講談社 2015年
- ・プラネットリンク『もったいない』マガジンハウス 2005年
- ・遊タイム『貧しい国で女の子として生きるということ』遊タイム出版 2010年
- ・石井光太『ぼくたちは、なぜ学校に行くのか。』ポプラ社 2013年
- ・かこさとし『秋』講談社 2021年

(3) 5年総合的な学習の時間「食を考える」

函南西小は、5年の2学期は食育をメインに学習している。そこに国際理解教育を含めた食育について子どもたちと学習した。

- ・日本や世界の食事情を知る。読み聞かせ（1時間）
池田香代子『世界がもし100人の村だったら③食べ物編』マガジンハウス 2004年
銀城康子『日本のごはん』農山漁村文化協会 2019年
- ・身近な日本の伝統料理を調べる（家族や親戚に聞く・ネット・本）（3時間）
- ・栄養師に給食の秘密、函南町の郷土料理（おざく）やみんなが調べた料理に関連することについて聞く（1時間）
- ・世界の食生活について考える（1時間）





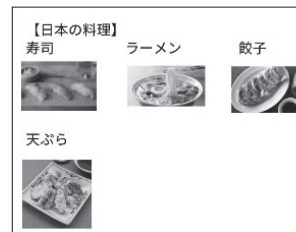
- 自分が調べたいことをさらに調べ、まとめて発表する。(13時間)
児童会行事「ひめしゃらの集い」で食についてのお店を出した。
子どもたちは、「給食」「和食の歴史」「和食の良さ」「和食と洋食の違い」「自給率」「世界の食」の6つのグループに分かれて学習した。



- 日本の食と比べて、世界の食を調べよう。
1人1つ国を選び、日本とその選んだ国の同じところ、似ているところ、違うところを調べて、発表会を行った。主食の違い、学校給食の違い、その国の定番料理、調味料の紹介、食べる時間や朝食昼食夕食の重要度の違い、食べる場所の違い、食器やスプーンなどの違いなどを1人1か国発表した。子どもたちは、日本との距離の関係や特産物の違いや宗教の違いなどにより、それぞれの国に独特の食文化があり、日本の食文化のよさとともに、他国の食文化を尊重しようとする気持ちが養えたと思う。

調べた国 (24 か国)

韓国・ベトナム・タイ・シンガポール
 インド・スリランカ・パラオ
 オーストラリア・ロシア・ウクライナ
 クロアチア・イタリア・ギリシャ
 フランス・ポルトガル・イギリス
 アイスランド
 エジプト
 アルジェリア
 アメリカ合衆国
 ブラジル
 ペルー・チリ
 アルゼンチン



(4) 5年音楽科 国歌「君が代」の指導

国歌の意味等も指導するが、世界には、いろいろな国歌があるということを紹介するために、DVDを視聴した。国歌とともに、その国の特色ある自然や風景、建物などから、それぞれの国に対する理解にもつながった。

紹介した国歌 (20 か国)

ベルギー・スペイン・フランス・イギリス・ドイツ・アルジェリア・カメルーン・エジプト・ケニア
 セネガル・南アフリカ共和国・オーストラリア・ニュージーランド・ギリシャ・ハンガリー・イタリア
 オランダ・ポルトガル・ロシア・スイス

(5) 5年特別活動「6年生を送る会」 世界の国の「ありがとう」を発表(学年発表)

出し物係が中心となって、それぞれのクラスでどんな出し物がよいかという話し合いを行った。各クラスから出てきた意見の中に、「世界の国のありがとうを伝える」という案が出てきた。出し物係で話し合い、持ち時間10分間の最後の3分くらいで、世界のありがとうの言葉を伝えることが、決定した。総合で調べた国のありがとうを調べ、本番では、しっかり27カ国語で感謝を伝えられた。

- ・コップンカ(タイ) ・シェシェ(中国) ・グラッツェ(イタリア)
- ・カームオーン(ベトナム) ・シュクラン(エジプト)
- ・サラマツ(フィリピン) ・バイラルラー(モンゴル)
- ・テシェッケルエルディム(トルコ) ・オブリガード(ブラジル)
- ・グラシアス(アルゼンチン) ・ジャクヨー(ウクライナ) など

3 実践の成果

・子どもたちのアンケート結果抜粋

〈考えが変わったり、新たな思いをもったりしたこと〉

平和は願ってあらわれるものだけど、時には自分たちが行動にあらわれ、願いを叶えることも大事だと思う。

その勉強をする前はそんなことを考えもしなかったけど、授業でそのようなことをやるだけで、僕らは、世界に対する気持ちを大きくくつがえしました。

世界で困っている人の役に立つことをするのも必要だということ

世界には、自分たちみたいに楽しく学校に通っている人はたくさんいるわけではないことを知ったから、大人になったらそういう人たちを助けられる人になりたいと思った。

今私は学校に行くのが普通だけど、世界には何人も学校に行きたくても行けない人がいるから、今わたしは精一杯勉強をして1人でも多くの人を学校に行けるようにしていきたいと思いました。

世界には学校に行きたくても、行けない子がいると知ったとき、「今日は学校に行きたくないな」と思う日もあるけど学校に行かなきゃと思う。

・全国学力・学習状況調査の質問調査結果

質問27の「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」という質問は、学年全体が、全国平均より11ポイント高い値だった。

質問28の「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」という質問は、学年全体が、全国平均より13ポイント高い値だった。

このことから学年で行った総合、行事、音楽などの影響で、学級だけでなく学年の子どもたちもグローバルな社会で前向きに生きていきたいという考えが見られた。

◇ 2年間の研究をふりかえって

委員会の研究をするようになってから、教育活動のあちらこちらで国際理解教育、平和教育の視点をとりいれて活動できるようになりました。2年間で終わるのではなく、基本的な活動は継続し、さらに新たな活動も盛り込み、西小の子どもたち全員がグローバルな視点をもてるよう活動を継続していきたいと思いました。

出典 独立行政法人国際協力機構『JiCAMAGAZINE12月004』JICA2021年
ピーター・メンツェル+フェイス・ダルージオ
『地球の食卓 世界24カ国の家族のごはん』TOTO出版2006年

多面的な視点での国際理解から、社会と自分の繋がりを考え、行動する子の育成
 ～「SDGs の眼鏡をかけて、世界を変える第1歩を！」の実践から～

小学校高学年の子どもたちは、世界に様々な国や地域があることを学び、国際的な視野を広げていきます。その中で、特長や文化の違いへの興味に留まらず、問題や課題にも関心を寄せ、自身の生活との関わりに気付いたり、平和に暮らすことができることのありがたみを感じたりしてほしいと考えました。SDGs ネイティブの子どもたちが、今できる一人一人の「第1歩」を考え、持続していけば、平和で豊かな未来を創造することができると思っています。

◇ 授業の具体

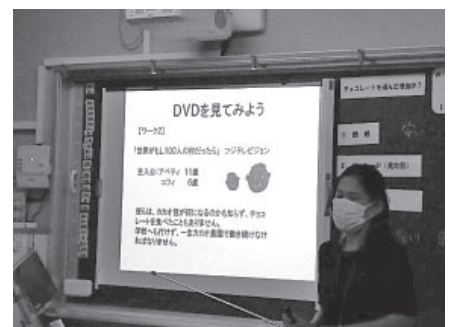
指導者 柳澤佑介（藤枝市立青島東小学校）

時期	教科等	活動内容
9月	総合	「賢い消費者の卵育成事業（消費生活センター）」による出前授業 フェアトレードや他国の現状を知り、消費との結び付きを考える
9月	総合	「静岡くらし・環境部県民生活局多文化共生課」による出前授業 他国（ベトナム、インドネシア）の国土や文化、問題について学ぶ
10月	総合	SDGs に関わるクイズや資料から、世界の課題について考える 参考：「SDGs クイズ図鑑」（書籍） 「私たちがつくる持続可能な世界」（ウェブサイト） https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/dl/SDGs.pdf
10月	総合	各自テーマや国、主とする SDGs との関わりを決定し、調べる
10月	国語	「固有種が教えてくれること」「グラフや表を用いて書こう」 効果的に引用したり、図表やグラフを用いたりする方法を学ぶ
11月	国語	「あなたは、どう考える」「提案しよう、言葉とわたしたち」 説得力のあるプレゼンの方法を学ぶ
11月	総合	各 SDGs に対する身近な「第1歩」について考える
11月 11月	常時	各 SDGs に対する身近な「第1歩」について考える
2月	総合	各自でまとめ新聞を作成し、校内に掲示する

【「私の買い物、いろんな視点で考えよう！」藤枝市消費生活センター】

身近な商品が世界につながっていることや商品の選び方の基準が価格や品質だけではないこと、買い物時の選択が社会をよりよくすることにつながるなどについての出前授業。

チョコレートの原材料「カカオ」が多く生産される国には、貧困や児童労働問題が背景にあることを知り、子どもたちは衝撃を受けていた。「フェアトレード商品」を購入することや商品のことをよく調べる、不要なものは買わないことが、社



出前授業の様子

会や環境に配慮した消費行動「エシカル消費」であることを理解し、SDGs に向けて身近な所でできることの一つとして選択肢を広げた。

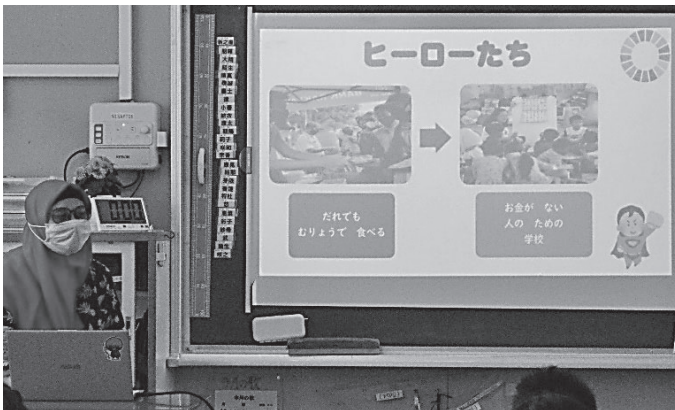
<子どもたちのふり返し>

- ・とても悲しい現実があることを知りました。児童労働はなくなってほしいです。みんなにSDGsの大切さを伝えて、みんなできとりたいです。
- ・今日の授業でこんなに貧しい子がいるんだ…と思いました。自分は楽に生活しているけれど、自分が知らない時に、世界の貧しい子は働いて苦勞していることに気付くことができたのでよい機会になりました。

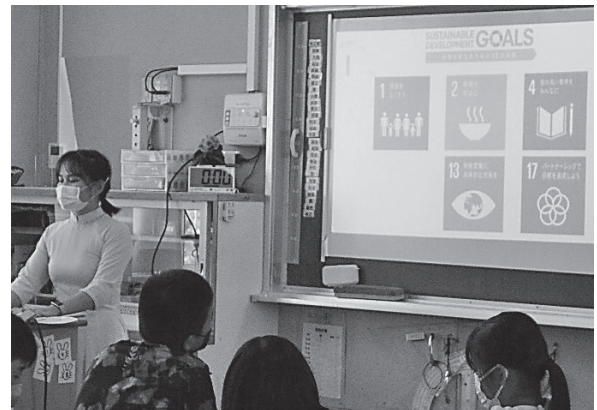
【「世界の文化と暮らし」静岡くらし・環境部県民生活局多文化共生課】

自然条件や文化、産業や自国が抱える課題についての出前授業。子どもたちは、美しい景色や伝統的な衣装、見慣れない料理や世界遺産に興味をもち、「日本だったら…」 「知らなかった」 「行ってみたい」などの感想を書いていた。

また、十分な食料がない人や教育が受けられない子、安全で清潔な家を持っていない人が多くいることや、そのような人々を支援したり、減らそうとしたりしている活動のことを知り、世界単位でSDGsの達成に向けて動いていることや一人一人が行動を起こす必要性を感じとっている様子だった。



インドネシア人による授業



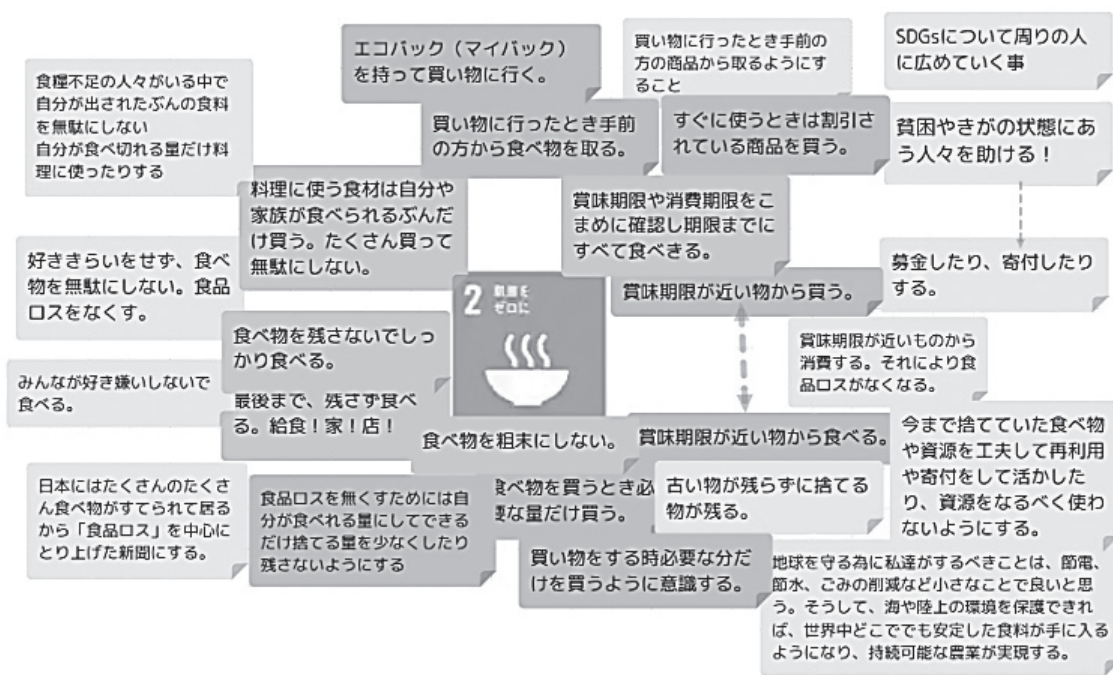
ベトナム人による授業

<子どもたちのふり返し>

- ・ベトナムでは、学校に行けない子どもがいると知って、日本とベトナムの生活では、いろいろなちがいがあると感じました。インドネシアの人には、ほぼ名字がないことに驚きました。インドネシアでも、お金がなくて学校へ行けない子どもがいるけれど、その子たちを助けている人たちのことを知りました。
- ・インドネシアの耳が長い女の人の写真を見て、とてもびっくりしました。耳かざりをつけてだんだんと伸ばしていくそうです。ベトナム、インドネシアでも、お金がない人のためにご飯を食べられるようにしたり、学校に行けるようにしたりする工夫がされていることを知りました。

【各SDGsに対する身近な「第1歩」について考える授業】

SDGsに関する本や「私たちがつくる持続可能な世界」(ウェブサイト)内の「みんなの行動宣言」を参考に、子どもたちにとって、学校にとって、家庭にとって身近なとりにくみを探し、コラボノート*に書き出した。ここでは、子どもたちが多く取り上げていたSDGs項目①②③④⑤⑫⑯に焦点を絞って調べたり、考えたりした。続けることが困難な目標を立てようとする子どもがいたため、「持続可能な」「身近かな」と問うことで考えさせ、各自「ちょっと背伸びの目標設定」を行った。



「飢餓をゼロに」に対する第一歩を考えたコラボノート

【各自で行ったSDGs「第1歩」の例】

学校や家庭でそれぞれが考えた実践を行った。とりくみをふり返るためのチェック表の作成やSDGsに向けた行動を友だちや家族に呼びかけるポスターの掲示、同世代の意識を調査するためのアンケートの実施などが「第1歩」として多く見られた。

Forms 経由の 10/24 15:00

投票: 名前が記録されました; 結果が共有されました

毎日電気を使わずに節約を心掛けていますか?
(正直に本当のことをお願いします)

- とても心掛けている
- 心掛けている
- あまり心掛けていない
- 心掛けていない

意識調査のアンケート

使っていない時はコンセントを抜いたり、部屋の電気をけず

	/	/	/	/
	/	/	/	/
	/	/	/	/
	/	/	/	/
	/	/	/	/
	/	/	/	/
	/	/	/	/
	/	/	/	/
	/	/	/	/
	/	/	/	/

とりくみをふり返る表



とりくみを促すためのポスター

【まとめ新聞を作る】

各自で調べたことを新聞の形式でまとめた。「国土」「気候」「文化」に加え、必ず「課題や問題」とそれに対する自分や家族の「第1歩」をとり入れることを条件とした。

作成した新聞は、校内に掲示した。そして、同じクラスや学年の友だちに対して、新聞をもとにした発表会を行い、感想や疑問などを伝え合った。まとめた国やテーマが違う友だちの調べたことや思いをしっかりと聞くのは初めてであったため、驚きの声が多くあがった。



「まとめ新聞」の記事



【成果と課題】

(1) 成果

- 世界について学び、考え始めた5年生の子どもたちが、母国である日本と他国の共通点や相違点を見出そうとする視点をもつことができるようになった。
- 一見すると格好の良いものやきれいなものが注目されるように情報は操作されがちだが、その裏には悲惨な現実や、考えなければいけない課題や問題があることに子どもたちが気づき始めた。
- 子どもたちにとって「SDGs」という言葉は他人事のような捉えであったが、自身のちょっとした意識や行動が貢献につながるということに気付いた。
- 当たり前なこと（例えば、友だちと楽しく勉強することや食べ物が十分にあること、電気や水が使えることや自宅の生活環境が整っていることなど）が、実は当たり前ではないことや身近な人（友だちや家族）は平和な暮らしをしている人が多いこと、同じ日本でも不自由な生活をしている人もいることを知り、自分自身の幸せのありがたみを感じたり、今後の生活を見直そうとしたりする態度が養われた。

(2) 課題

- 個人での調べ学習やまとめに多くの時間を割いたため、新しい発見や感想を子どもたち同士で共有する授業があまりできなかった。もっと子どもたちの思いや願いを大切にし、活動のまとめごとで話し合いの場を設けていきたい。そうすることで、全体的に調べることの幅や「第1歩」の選択肢が増えていくと考えられる。（「エシカル消費」についてのアクションを「第1歩」とした子どもが少なく、出前授業後の振り返りや内容の扱い方が不十分であったことを反省した。）
- 特定の地域や国については深く調べることができたが、友だちの情報と結びつけて考えたり、日本の抱える諸問題に関心を寄せたりすることができなかった。対話・協働を意識した授業改善が必要である。また、日本にも他国と同様にあらゆる問題があることに目を向けさせる資料があるとよいと感じた。
- 「国際理解」「SDGs」に留まってしまった。道徳や学級活動で他者との関わり方や気持ちについて扱うなど、横断的に計画することで、「平和的解決」の「第1歩」と結びつけることができ、より自分ごととして捉えられる子どもが増えていくと考えられる。
- 呼びかけや働きかけが自校の同学年を中心としたものになってしまった。同じテーマの子どもでチームを組み、他学年へ呼びかけにいたり、地域で発信できる場を設定したりすることで、より子どもたちの意欲や使命感が高まると考えられる。

◇ 2年間の研究を振り返って

5年生を担当した経験の中で「総合的な学習の時間」のテーマを「国際理解」とし、「好きな国を調べて、紹介する」という展開がほとんどでした。所員として研究や授業をすることで、子どもたち一人一人の考えや行動が、世界の人々につながり、よりよい社会をつくっていくことになることを感じさせることができるようになったと思います。日々の生活が「当たり前」になり過ぎている現代の子どもたちが、平和に対する「ありがたみ」や「感謝」を感じ、他者や他国のために行動できる、広い視野をもった大人になれるよう今後も研修を深めていきたいです。

出典

笹谷秀光『SDGs クイズ図鑑』宝島社・2021年

※コラボノートは、ジェイアール四国コミュニケーションウェアの登録商標または商標です。

子どもが気付く日本の誇り

身近にいる親切な外国人や、魅力的な外国製品のおかげで、子どもたちは外国を肯定的に捉えています。しかしながら、子どもたちは、目の前の外国だけを見ており、実情には気付いていないように思います。同様に、自国の強みや、課題を客観的に捉える力も伸ばす余地が十分に残っているように感じます。あらゆる情報に触れた上で、「それでもあの国（我が国）は総じて素晴らしい」と判断できる力の育成をめざしました。

そこで、まず日本と外国のつながりを明らかにすることで、日本の国際的な役割について考えを深めます。次に、我が国が、これまでにどのように課題を克服してきたかを調べる活動を通して、日本人としての誇りを高める授業実践をしようと考えました。

◇ 実践の具体

指導者 岩崎 智宏（長泉町立長泉小学校）

1 2022年度

(1) 目的

○アジアの国々と友好でいることは、日本の発展にも欠かせないことに気付く。

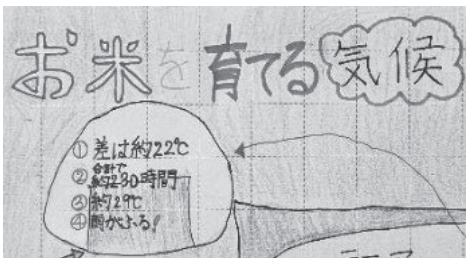
(2) 方法

○日本とベトナム、日本とエジプトとの産業のつながりを調べる。

(3) 実践

①農業「日本の米づくり～米農家の工夫を考える～」

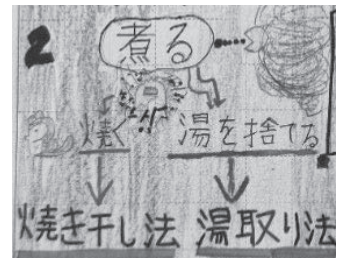
- ・米の自給率だけが高いことに疑問をもち、「外国の米事情」に視野を広げる。
- ・まとめる過程で、ベトナムとエジプトの視点を加える。
- ・方眼画用紙にまとめ、成果物を電子黒板で写して発表会を開く。
- ・学びの深化をねらい、子どもたちの成果物を活用しながらまとめの授業を行う。



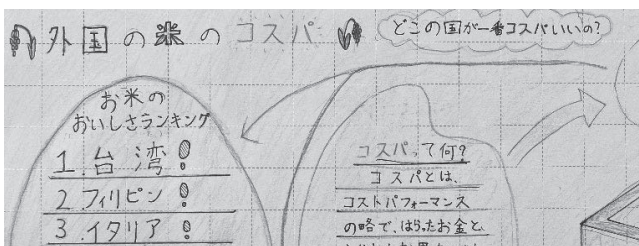
「品種が異なるのは、気候や地形が違うから」ということに気づき、思考に変化が生じた。



品種に合わせた料理や調理法にしていることを知り、外国米への認識がより変わってきた。

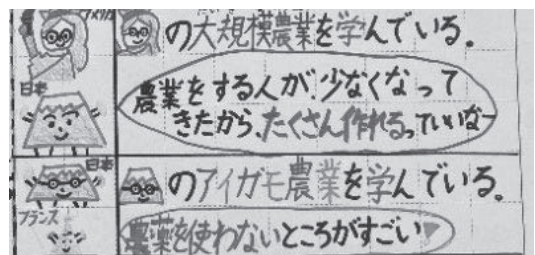


◎美味しく食べる工夫に気づき、「外国ってすごいな」という気持ちになった。



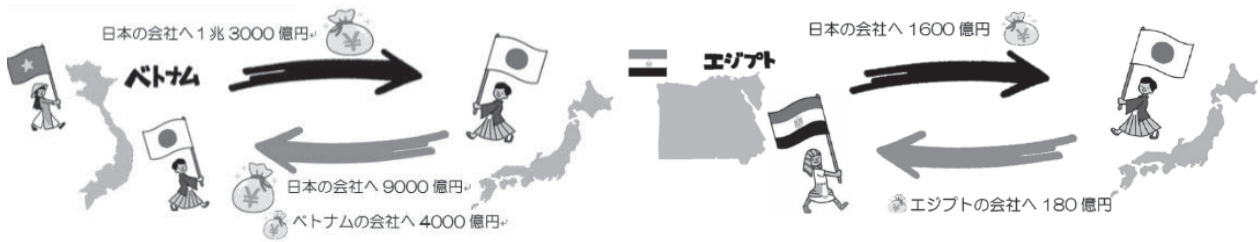
◎日本の米の生産量や技術はそれほどではないのかも。

◎外国と協力していることから友好的な関係だと感じた。



②工業「日本の工業の特色と貿易から外国とのつながりを考える」

- ・日本の貿易相手国としてアメリカ、中国、サウジアラビアについて学びを深める。
- ・貿易について、ベトナムとエジプトの視点を加える。
- ・下の資料から、課題と解決策を班で考える。



- ◎現地生産の課題をとりあげる班が多かった。
- ◎両国の関係から日本は品質で国際競争力を高めるべきだと考える班もあった。
- ◎食料品の輸入量を課題に感じた班もありSDGsの視点でも考えを深めた。

- ◎貿易摩擦が問題だと捉える班が多かった。
- ◎日本にとって貴重な石油を産出する国であるため、友好であるための提案が考えられた。
- ◎燃料電池車が普及した場合の当国との関わり方について考える班も見られた。

- ・学びの発展をねらい、子どもたち発表から新たな課題を考え、解決を図る。

疑問1『家電の現地生産に賛成か』

賛成 40%「ベトナムの工業も発展する」 反対 60%「日本人の収入が減る」

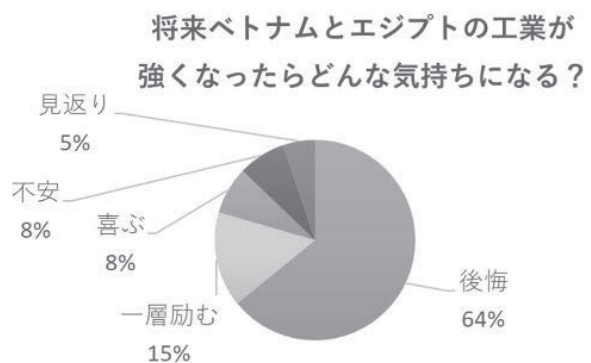
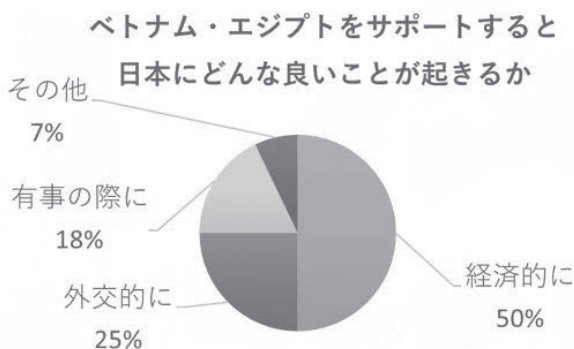
疑問2『エビの輸入を減らすのは良い事か』

賛成 37%「食品ロスが減る」 反対 63%「輸出量が減り業者が貧しくなる」

疑問3『燃料電池車の開発は石油を輸出する国との関係を悪くすると思うか』

賛成 47%「せっかく売ってくれるのに」 反対 53%「代替りの物を輸入する」

- ・最後に、今後起きるかもしれない事態をどのように受け止めるかについて考える。そして、心構えや自分の役割についてまとめる。



(4) 成果と課題

①目的が達成されたと判断できる子どもの振り返り

- ・炊き方や料理によっては、外国の米の方がよいときもある。おいしく料理している。
- ・貿易は、相手国や日本の事情も関係していて、貿易って奥が深いなと思いました。
- ・安定した貿易をしてもらっている国に感謝したいと思いました。
- ・相手のことを思いながら、自分たちの生活のために貿易していた日本がすごい。

②課題

- ・個人学習では目的達成まで至らなかったらと思うられる子どもがいたことから、子どもの学びをまとめたり、学習形態を工夫したりするところに授業者のコーディネート力が求められる。簡易版を開発することで、授業実践をしやすくなるかもしれない。

2 2023年度

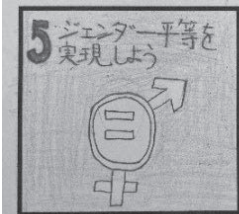
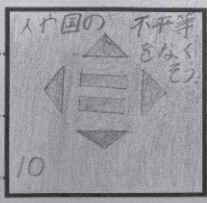


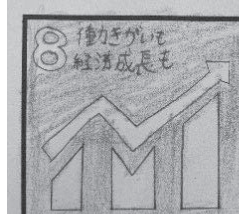

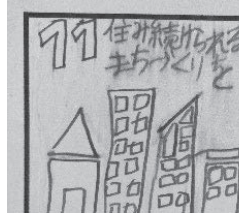
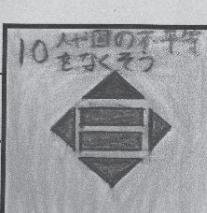
(1) 目的

- 日本の強みと課題を客観的に捉えることで、国際人としてのバランス感覚を養う。

(2) 方法

- 時代ごとのまとまりに、当時の日本の強みと課題をSDGsに照らして考える。
- 意見交換を通して、現代日本とのつながりや、解決策について考えを深める。

(3) 実践

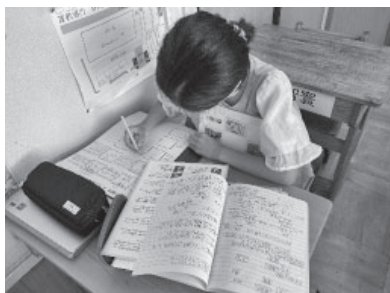
時代	いいね	がんばろうね
縄文 ～ 古墳	 <p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p> <p>男性だけでなく 女性も王に なっている。</p>	 <p>10 人々の間の 不平等をなく しよう</p> <p>弓矢、弱い人の差 古墳の大きさ</p>
奈良 ～ 平安	 <p>4 質の高い教育 をみんなに</p> <p>仏教を教えて いる かな文字で本</p>	 <p>3 すべての人に 健康と福祉を</p> <p>伝染病 農民がひどく苦し</p>
鎌倉 ～ 室町	 <p>8 働きがいを 経済成長も</p> <p>ご恩と奉公 (働きがい) 農業生産の向上</p>	 <p>16 平和と公正を すべての人に</p> <p>鎌倉幕府滅亡の原因。 農民が一揆をおこす。 戦乱の世になる。</p>
戦国 ～ 江戸	 <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> <p>江戸幕府 260年 争いなし</p>	 <p>10 人々の間の 不平等をなく しよう</p> <p>鎖国 身分制度 キリスト教禁止</p>

「数字」はSDGsの目標項目、文字は理由を表す。

○子どもの反応

- ・歴史上の出来事をSDGsの目標に当てはめて考えることで、その出来事を様々な見方で考えることができた。
- ・クラスの中で「こんな風にとらえるんだ」と新たな意見にも出会えた。

- ・ 普段の授業の内容についても深く考えることができた。



SDGsの目標に当てはめて考える活動は、歴史学習のふり返りにもなっていた。
自然とノートや教科書を開き、復習を兼ねてとりくんでいた。

(4) 成果と課題

① 目的が達成されたと判断できる子どものふり返り

- ・ 目標 16 はいつまでも達成できないのかな。いつか達成する世の中にしたいです。
- ・ 「いいね」の部分はどんどんよくなっているけど、私の中だと目標 10 がずっと×だ。
- ・ 時代がすすむにつれて技術は進化するけど、環境を守る目標にはよくない。
- ・ 今は性差が問題だけど、良くしてもらおうじゃなくて、自分から頑張りたいと思った。

② 課題

- ・ その時代の最もインパクトの強かった事象に思考が引っ張られるため、総合的に判断することが難しかった。
- ・ あらゆる角度から物事を見ることはよい反面、收拾がつかない問題もある。話し合いに入る前に授業者側で着地点を用意しておくことが必要だと感じた。

◇ 2年間の研究をふり返って

「あちらを立てればこちらが立たず」という言葉がありますが、これは国際社会にもSDGsにも当てはまるなと実感しました。世界中すべての人を納得させたり、すべての目標を達成したりすることは、やはり難しいようです。現状を改善するための提案を考えるほど、先の言葉が壁となって立ちはだかってきました。その度に、子どもと頭を抱えながら2の案、3の案と練ってきました。そのほとんどは、現実離れした夢物語です。しかしながら、もしも、そんな世界が本当に実現したらと、わくわくしながら授業をすすめたのも、また事実です。

子どものふり返りの中に、貿易は平和のために一役買っているかもしれないという考えがありました。また、金銭だけでなく、心や技術のやりとりを通して、本当の意味で外国と強く結びたいとまとめたレポートに、頼もしさを感じました。SDGsを歴史学習にとり入れたことで、「かつての日本はできていた」という情報を得た子どもたちの目は輝いていました。実践を通して、「どうせできっこない」ではなく、「やってやるぞ」という前向きな気持ちで、現状と向き合う覚悟ができたように見えました。

日々の授業実践では、つい多忙を理由にして追究の手を緩めがちではありますが、今回、深いレベルで物事を考察できたことは、貴重な経験になりました。共に学んだ子どもたちが、近い将来、社会に出て世界を相手に生きていくときに、この学びが生かされ、自国も他国も愛する行動をとり続ける姿を願っています。

自他を尊重して伝え合う力

「平和を大切にしたい」と世界中の誰もが願っていても、一人一人が異なる背景をもつために、それぞれの理解や解釈は少しずつ異なります。誰かの平和を求めたとき、異なる価値観をもつ誰かにとって、平和はなくなります。

対話を通じて、課題の根底にある相互の考え方や価値観の違いに気付くことが、平和につながるのではないかと考えました。そこで、平和的に課題を解決できるようにするために、自他を尊重して伝え合う力を付けられるような授業を構想し、実践することにしました。

◇ 授業の具体 I

第 5 学年 外国語科学習指導案

指導者 金田あゆみ（掛川市立第二小学校）

1 単元名 What would you like? ～相手を大切にできる 5 年生になろう～

2 単元目標

相手に対する敬意を表すことができるように、料理や注文、値段などについて、丁寧な言い方で尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。

3 本時の指導（6 / 8）

(1) 目標

友だちの好みを知ったり自分のおすすめを知ってもらったりするために、相手に伝わりやすい工夫を考えながら注文し合う活動を通して、自分の気持ちや考えなどを含めて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

(2) 指導過程

段階	学習活動 ○発問・予想される子どものあらわれ	※手だてや工夫★評価
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">レストランでのやりとりをしよう。</div> A & B : Hello. A : This is the menu. What would you like? B : I'd like a hamburger and French fries. A : Anything else? B : No, thank you.	※授業者が bad version なコミュニケーションモデルをデモンストレーションする。聞き手の反応や応答の内容によって、相手が話しやすくなる効果があることを確認する。 ※正しい英語表現より、相手に伝わるかどうかを優先する。言えずに困った表現は全体で共有し、使える語彙をその都度広げる。 ※相手に応じて言いたいことを選択したり付け加えたりして伝えられるよう、机間指導の中で支援する。
見出す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">どうしたらお客さんがもっと注文したくなるようなやりとりができるだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> • 笑顔でゆっくりはっきり話す。 • Do you like sweets? とか質問して、お客さんの好きなものを勧めてみる。 ○おすすめメニューの紹介をペアで見直そう。 • チョコレートが好きかどうか聞いたら相手の返事が No. で困った。オプションのメニューの中から何が好きかを聞いた方が、良いのかな。 • おすすめメニューの“すてき”を healthy とか popular とか詳しく紹介したら、興味をもってもらって、話を聞いてもらえるかも知れない。 	

<p>深める</p> <p>ふり返る</p>	<p>○お互いに気持ちのよいやり取りが続くように高め合おう。 A & B : Hello. A : This is the menu. What would you like? B : I'd like a hamburger and French fries. A : A hamburger and French fries. OK. How about dessert? Do you like fruits? B : Yes. I like apples. A : Sounds good. How about apple pie or apple juice? I love this apple pie and ice cream together. B : Nice. I'd like apple pie. A : O.K.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>質問したら果物が好きだとわかった。相手に合わせたデザートをおすすめできたし、会話がつながるようになって、やり取りが楽しかった。</p> </div>	<p>※相手意識を大切にする子どもの姿（例：イラストを手掛かりにオーダーやお勧めを伝え合う。伝わらなかった表現や言いたかった語句を見直し、より伝わりやすい表現を考える。など）を認め、全体に紹介する。</p> <p>★自分の気持ちや考えなどを伝えながら、相手の応答や反応に合わせて注文のやりとりの工夫をすることができたか。（ふり返りシート、行動観察）</p>
<p>第7時</p>	<p>○もっと言いたかった表現はあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の好みをもう少し聞き出したい。 ・お店の人のおすすめとか、何でそれがおすすめなのかを知りたい。 ・注文が少なかった場合、どうしたら良いのかな。 	<p>※気持ちや考えを伝え合えるようにするために、どのような表現をすると良いのかを相互に考える。</p>
<p>第8時</p>	<p>○ゲストティーチャーから相手を大切にする接し方を学ぼう。</p> <p>○寝てしまった家族の分も機内食を注文しよう。</p>	<p>※C Aの方からより高いコミュニケーションスキルを学ぼう。</p>

4 授業の成果と課題

○相手に伝わりやすい工夫や表現を考えることで、話をしている相手の様子をうかがったり、考えたりする様子が見られた。また、質問を重ねたり、相手の話を遮らずに最後まで聞いたり



することが、相手の気持ちや考えを大切にできると多くの子がふり返っていた。他教科においても聞き手としての意識の高まりは見られ、小集団活動では穏やかな話し合いをする姿が多く見られるようになった。

○相手を変えて何度も活動を繰り返す中で、イラストを相手に見せながら伝える他者意識や、伝わったかどうかを確認する相手意識が、多くの子に見られるようになった。この伝え方はペア活動や集団登校活動の中でも発揮され、特に下級生への伝え方に配慮する様子が見られるようになった。

▲授業や任された役割等での場面では、言葉の選び方を意識するようになったが、友だちとの関わりの中では、言葉を交わしていてもその感じ方や価値観の違いから誤解や認識のすれ違いを生じる場面がよく見られる。どうしてそのような考え方をしたのか相手の気持ちを想像して伝え合う必要がある。

第6学年 外国語科学習指導案

1 単元名 Let's go to Italy.

～外国の文化の中から日本との共通点を見つけよう～

2 単元目標

自分のことを伝えたり、相手のことをよく知るために、おすすめの国や地域とその理由について、短い話を聞いてその概要がわかったり、伝え合ったり、話したりすることができる。また、来日した外国人を対象にしたスピーチの内容や表現を伝え合い、外国を訪れた時に、現地の人にどんなことを言ってもらえたら嬉しいかを考える活動を通して、海外の文化や生活、外国の人との考え方などの相違点を大切にすることができる。

3 本時の指導（5／8）

（1）目標

調べた国や地域について、その国の人に喜んでもらう工夫を考えながら紹介する活動を通して、伝える内容を整理した上で、自分の気持ちや考えなどを含めて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。

（2）指導過程

段階	学習活動 ○発問・予想される子どものあらわれ	※手だてや工夫★評価
<p>導入</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">外国を紹介する動画をつくろう。</div> <p>Thailand is a nice country. You can see many temples. Big temples are fantastic. You can enjoy Khom Loi Festival. It's beautiful. You can eat Pad Grapao Gai. It's spicy.</p>	<p>※スタジアムで国際試合を開催する場合の外国紹介動画という動機付けにする。</p> <p>※事柄のみを紹介されるのと、紹介者の気持ちや考えも合わせて紹介されるのと、動画を見た外国人サポーターや選手が喜ぶのはどちらか考えられるよう見本を示す場を設け、発表内容を再考する機会にする。</p> <p>※聞き手は印象に残った内容を伝え、相手意識のある内容や表現について相互に助言し合う。</p> <p>★調べた国や地域について、自分の気持ちや考えを付け加えながら話すことができたか（ふり返りシート、行動観察）</p>
<p>見出す</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">どんな内容を伝えると、海外の人に喜んでもらえるだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・1つの事柄について詳しく伝えと、自分の国の自慢を日本人にも紹介できて喜んでもらえると思う。 ・海外旅行中に日本語で挨拶されたら嬉しかった。 特産品を紹介しながら自分の好きなポイントを言えば、自分の国が知られている感じがするし、好きだと言われるから喜んでもらえるんじゃないかな。 	
<p>深める</p>	<p>○スピーチを見直そう。</p> <p>Hello! สวัสดีครับ. Thailand is a nice country. You can see many temples. Big temples are fantastic. You can enjoy Khom Loi Festival. It's beautiful. This is famous for the Rapunzel movie. Do you like Disney? You can enjoy it in Chiang Mai. It's fantastic, too. Do you want to try spicy food? You can eat Pad Grapao Gai. Paprika and onions in it. It's spicy but delicious. I like Thailand. Thailand is a nice country.</p>	
<p>ふり返る</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">料理の材料を意識していなかったけど、アレルギーや宗教のことを考えると紹介した方が良いとわかった。質問を入れると相手に合わせて話ができただから、次回は Do you know ～? も使ってみたい。</div>	

第6時	<p>○実際に外国の人から話を聞いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の暮らしと比べて、違うことが多くあった。 ・文化や習慣は宗教に影響を受ける部分があった。 ・日本との違いを理解することが大切だと思う。 ・他の国の人と交流するときどんなことに気をつけたら良いのかな。 	<p>※他国との違いだけに着目せず、共通点から考えよう、支援する。</p>
-----	--	---------------------------------------

4 子どもの書いたふり返りの一部

- ・ブラジルの人は時間にルーズだと思っていた。でも約束の時間にあえて遅らせると聞いて驚いた。それは、相手に急がなければ、とあわてさせないため、日本人の5分前行動は、相手の時間を無駄にしないためだけど、5分後行動も相手への思いやりだった。時間に対する考え方は違ったけれど、相手を大切にする、という考え方は一緒だと思った。
- ・ハンバーガーの話は1度も出てこなかった。「アメリカ＝ハンバーガー」の考え方は変えようと思った。日本人が寿司しか食べないと思われたら困るのと一緒なのかも知れない。知っているつもりでも、実際に相手に聞いてみなければ、実はわかっていないとわかった。有名な食べ物の紹介内容をもう少し増やしたりして、他の国の文化を大事にしたい。友だちの韓国好きは驚いたから（友だちのことも）知っているつもりでも聞いてみなければ、知らないことは他にもあるかも知れない。



ゲストの話からわかったことを話し合う中で、世界の人との共通点を発見していく。

5 授業の成果と課題

- 外国の文化に対する思い込みが自分たちの中にあったことに子どもたちが気づき、相手の話をまずは傾聴しようとする雰囲気が高まった。その考え方を普段の生活でも生かしていこうと投げかけることで、意見の食い違いが生じた際、お互いの主張をまずは聞こうとする姿が見られるようになった。
- ▲時として、発言頻度の高い子や声量の大きい子の意見に流される場面もある。「何に気をつけると良いのかな」と投げかけると、「一人ずつ」「最後まで」と聞き方を自分たちで思い出すことができるので、お互いの意思を尊重する聞き方を今後も大切にしていきたい。

◇ 2年間の研究をふり返って

自他を尊重して伝え合う力を意識した授業実践になりました。子どもたちにとって、自分の気持ちや考えを言語化する機会が設けられ、自分の好きなことや意見を認められる場が増えた2年にもなりました。子どもたちから誰の意見も最後まで、まずは聞いてみようとする傾向が生まれ、その経過を見守ることができたのは貴重な経験になりました。今後も伝え合う力を意識した実践を重ねていきたいと考えています。

対話から平和的解決へ

相手の立場を尊重して自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることによって、人と人が関わることで生じる問題を緩和することができると思います。それは、物事を平和的に解決する力として子どもたちに身につけてほしい力です。学級の子どもたちを見ていると、思っていることを上手く伝え合えず、人間関係の悩みを抱えています。クラスメートや教職員との関わりに対してとても慎重で、対話が不足しているように見えます。今回の実践では、良いコミュニケーションについて考え、子どもたちが身近に感じられる問題を、対話を通して解決していく活動を行いました。

◇ 授業の具体 I

第1学年3組 学活学習指導案

指導者 三宅 克樹（湖西市立新居中学校）

- 1 題 材 名 クラス会の遊びを決めよう
- 2 目 標 理由や根拠を示しながら自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いて自分にとり入れたりすることを通じて、平和的に問題を解決する力を育む。

3 学習過程

○学習活動 ・ 予想される生徒の表れ	○評価 ・ 留意点 支：支援
<p>○「みんなが納得する決定はどうすればできる？」の資料を読む。</p> <p>○本時の目標を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>クラスの全員が満足度 70% 以上になるように、話し合いを通じてクラス会で行う遊びを決める。</p> </div> <p>○クラス会で行いたい遊びを書き出す。 ・ ドッジボール ・ なんでもバスケット ・ ハンカチ落とし ・ 泥棒と警察</p> <p>○2人組で話し合いを行う。時間で終了し、4人組、8人組と人数を増やして繰り返し話し合いを行う。(生徒の人数は32名なので最大12のアイデアが残る。)</p> <p>○残ったアイデアの中から、ボルダールール^{*1}で遊びを決定する。</p> <p>○結果を踏まえて、自分の満足度を記入し、授業の感想を書く。</p>	<p>・ これまでの学校生活で、話し合いで上手く解決できなかった経験を想起する。</p> <p>・ その遊びがよいと考える理由を書く。</p> <p>・ 話し合いを通じて、相手の考えに納得したら、自分の考えを変えてもよいことを伝える。</p> <p>・ 話し合いを通して、グループの中で3つの遊びにしぼる。</p> <p>・ ボルダールールを確認する。</p> <p>・ 満足度を記入する際に、目標に付度しなくてもよいことを伝える。</p>

クラスの全員が満足度 70% 以上になるように、話し合いを通じてクラス会で行う遊びを決める活動を通じて、平和的に問題を解決する力を育む。

○話し合いを通じて、意見の異なる相手と合意形成しようとし、意見を伝えることや相手の考えを聞くことの大切さを感じることができたか。[ワークシート]

4 資料等

【ボルダールールのやり方】

手順 1. すべての生徒が、候補となるアイデアについて順位をつける。

手順 2. 1位は 5 点、5 位は 1 点のように点数化する。

手順 3. それぞれのアイデアの点数を計算し、最も点数の高かったアイデアを採用する。

※ 1 ボルダールール 18 世紀後半にフランス海軍の科学者ジャン＝シャルル・ド・ボルダが考案した投票の仕組み

5 授業の成果と課題

身近な問題について実践形式で行った。「クラス会で何をするか」という生徒の関心が高いテーマを設定し、話し合いとボルダールールで決めることにした。いつもは単純な多数決で決めることが多いので、一部の生徒は結果に不満をもつこともあった。そのため、今回は話し合いを通じて全員が納得できる案に決めることを目標とした。(授業では納得できる案の指標を満足度 70% 以上とした。) 結果として、全員が満足度 70% 以上を達成することはできなかったが、多数決で一方向的に少数派の意見を切り捨てるのではなく、少数派の意見についても議論することで、少数派の意見をもつ生徒も納得できたことがわかった。多くの子どもたちは、ふり返りに、「議論することの重要性を感じ、これからも話し合って意見を伝え合うことを大切にしたい」という感想を書いた。子どもたちの中には、結果に対する満足度が 40% の生徒もいたが、感想には、「自分の意見を伝えることができよかった」という前向きな言葉があり、たとえ意見が採用されなくても、議論する機会をつくることで、結果への納得感は変わるのかもしれないと感じた。一方、話し合いをしても解決されないことがあることもわかり、平和的解決のためにほかにどのような方法をとることができるか考えなければならない。

【まとめ】
1年3組クラス会で行う遊びは、で、
この結果に対する自分の満足度は %です。

今日の感想
○単純な多数決ではない決め方としての話し合いや、ボルダールールはどうだったか？
○今後、意見の対立があったときにはどのように決めていきたいか。

話し合いでは、自分の意見と根拠を言うことができ、みんなの意見もよくまとまったのでよかったです。今回決めた遊びは、自分の中では順位が低いものになってしまったけれど、だからこそ今回のけいけんを生かして、次の話し合いではみんなが満足する結果にしたいです。

【まとめ】
1年3組クラス会で行う遊びは、で、
この結果に対する自分の満足度は %です。

今日の感想
○単純な多数決ではない決め方としての話し合いや、ボルダールールはどうだったか？
○今後、意見の対立があったときにはどのように決めていきたいか。

今日の多数決ではない決め方として、話し合いや、ボルダールールをやったことで、自分の意見が認められ、みんなの意見もよくまとまったのでよかったです。今回決めた遊びは、自分の中では順位が低いものになってしまったけれど、だからこそ今回のけいけんを生かして、次の話し合いではみんなが満足する結果にしたいです。

- 1 題材名 合唱曲を決めよう
- 2 目標 理由や根拠を示しながら自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることを通じて、考えの異なる他者との合意形成を図ろうとする力を育む。
- 3 学習過程

○学習活動 ・予想される生徒の表れ	○評価 ・留意点 支：支援
<p>○合唱コンクールにどのようにとりくみたいか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞を取りたい ・良い合唱にしたい ・みんなで協力してとりくみたい <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>理由や根拠を示しながら自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることを通じて、クラス全員が納得できる合唱曲を決めよう。</p> </div> <p>○候補曲を聞いて、自分のランキングをつける</p> <p>○グループで、自分が1番だと思ふ曲について、理由を加えながらその曲の良さを伝え合う。また、1番に選ばなかった曲とその理由について伝えてもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞に励まされる ・歌いやすいメロディー ・伴奏が難しい <p>○それぞれの曲の賛成意見、反対意見を発表しながら、全曲を検討する。候補を4曲にしぼり、それぞれの曲で多数決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メロディーは好きだが、このクラスで歌うには難易度が高いと思うので、この曲には反対 ・サビのところの盛り上がりがとてもきれいで、このクラスで歌ってみたい <p>○結果を踏まえて、自分が結果に対して納得できたかどうか記入し、授業の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに「ハーモニーがそろっていて、聞いている人に感動を与えられる合唱」をめざすための曲決めであることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の感想を書くときに、良いまたは悪いと考える根拠を考えながら書くことを伝える。 ・時間をかけて話し合いをしながら、できるだけみんなの納得感の大きい結果になるように決めたいことを生徒に伝える。 ・グループでの伝え合いでは、「なんとなく」や「良かったから」など、曖昧な理由は避けるように伝える。 <p>支：理由が思いつかない生徒には、理由となりうる言葉を伝えながら、一緒に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの人の話を聞いた結果、曲に対する評価が変わった場合は、変更してもよいことを伝える。 ・賛成意見も反対意見も出ない場合は、候補からなくしてもよいか多数決を取る。

理由や根拠を示しながら自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることを通じて、考えの異なる他者との合意形成を図ろうとする力を育む。

○話し合いを通じて、意見の異なる相手と合意形成しようとし、意見を伝えることや相手の考えを聞くことの大切さを感じることができたか。

[ワークシート] [観察]

4 授業の成果と課題

授業の成果は、話し合いを通して生徒一人一人の意見を聞くことができ、多くの生徒が結果について納得できたことである。また、思うような結果にならなかった生徒にとっても、自分とは異なる考えに気付くことができたり、自分の意見を聞いてもらえたという満足感が得られたりして、自分の意見を伝えることの大切さを学ぶことができた。話し合いの中で、生徒たちは曲の特徴をとらえて、根拠を説明しながら自分の意見を伝えることができていた。クラスの候補曲とは違う曲を選んだ生徒も、他の生徒の意見を聞いて考えが変わったり、他の曲の良さに気付いたりすることがあった。また、個人的に好きという観点とクラスに合っているかという二つの観点で評価することができ、自分の好みだけでなく、クラスとの相性を考えて選曲できていた点が良かった。

課題は、全員の合意は得られなかったことである。そのような場合に、結果を受け入れ、次の活動に前向きにとりくめることが大切だと考えている。話し合いの内容は建設的なものであったか、決定した結果はみんなが納得できるものであったかという点を重視して話し合い活動が行えるように指導していくことが必要だと感じた。

合唱コンクールを終えて、日常生活の中で生徒間のコミュニケーションが増えた。1年生のころは、些細なことでも、「〇〇さんが～してくれません」など、生徒同士で伝え合うことができず、教員に相談に来ることが多かったが、2年生になり、生徒同士で伝え合って互いの問題を解決しようとする姿が見られた。また、教科の授業でも、「授業中の雰囲気明るくなった」「活動に意欲的にとりくめるようになった」など、他教科の教員からも学級の様子の変化が見られたという声があった。



◇ 2年間の研究をふり返って

これまで自分が担任した学級で意見を1つに決めるときに単純な多数決で決めることが多かったが、国際連帯と平和教育研究委員会の所員になって、合意形成できる部分は話し合いをして決めたり、全体の意見をきちんと聞いてから決めたりするようになりました。これまで自分が担当してきた生徒たちは、自分の意見を伝えることに消極的だと思っていたのですが、話し合いの場があれば、きちんと根拠を示しながら考えを伝えることができることがわかりました。一方、多数決でも話し合いでも解決できないこともあり、そのような場合にどのように平和的に解決できるかを考えていきたいと思いました。また、今回のとりくみを通じて、本校では、生徒が話し合いを通じて決定していく場面が少ないことに気付きました。生徒が決める場面を増やすことで、主体的に活動にとりくめるのだと、自分自身が学ぶことができました。今後も、話し合いを活発に行うことで、自ら課題解決できる生徒の育成をめざし、学校全体にも促していきたいと考えています。

委員会活動から広がる「世界市民教育」

「世界市民の育成」をキーワードに実践を行いました。そこで注目したのが、自分の学級や担当教科に留まらず、いかにして「子どもを主人公」にして「学校全体」で「継続して実践」できるかという視点でした。まず「委員会活動」に着目し、現在行っていることに「世界市民教育」の視点を盛り込み、内容を工夫・充実させ、やがて委員会活動を連携させることで、全校体制で実践できるのではないかと考え実践をしました。

◇ 実践の具体

指導者 山田 信彦（三島市立北中学校）

1 実践のねらい

子どもたちは、自分の国の生活文化や感覚が「普通」で、それと異なる海外の文化を「変」だと感じたり、「グローバル化」という言葉を学習しても、実生活の中ではピンと来なかったりするという実態があった。さらに新型コロナの世界的な大流行により、海外は言うまでも無く、国内でも移動が制限され、異文化の体験や交流をする機会が大きく減ってしまった。そこで、日常の学校生活の中から世界に視野を広げ、異なるものに共感する場面を設けたりして、委員会活動を糸口に「世界市民の育成」をめざし、子どもたちを主体に、全校体制で継続して実践できる方法を考えた。

2 活動実践

【学習委員会×給食委員会×給食コラボ企画「北中国際理解の日」のとりくみ】

本校では、国際理解教育を推進するために「世界の国々を知ろう！」と題し、毎回31日を「北中国際理解の日」（「こくさい(31)」と「差異(31)を認める」で31日に制定）とした。

学習委員会・掲示物班では「世界の国々を知ろう！」とテーマ国について多角的に調べ、階段に掲示することにした。しかし掲示物だけでは、「見る人と見ない人がいるのでは？」どうしたらみんなが関心をもち、意味ある活動としていけるのかを熟考した。そこで「給食」に注目！栄養教諭に依頼し、麻婆豆腐、ナンなど、毎月アットランダムに出ている世界の料理を「世界を知ろう！ワールド給食」と題し、「掲示と食のコラボレーション」をすることになった。



さらに献立の放送時にその国の食文化、調理法、料理名の由来、その国の給食事情などを紹介。全校生徒が食を通じ、一層その国が身近になり、毎回楽しみにしてくれるようになった。

本校の給食調理室は、隣接する中学校にも同じ給食のメニューが提供されている。本校のみならず、隣接校にもこの国際理解教育の波が広がりつつある。献立表や学校ホームページの給食欄に「世界を知ろう！ワールド給食」と明記されることで保護者も関心をもち、「我が家でも外国の料理を親子で作ってみました」「韓国料理のお店に行ってみました」という家族を巻き込んで行われる「他文化理解」「国際理解」の嬉しい反応も見られるようになった。

こうして始まった「北中国際理解の日」。生徒たちは、「次は、どの国なのか楽しみ！」「国際理解の企画に携わりたくて学習委員会に立候補しました」等の声が聞こえてきた。



《これまでの「北中国際理解の日」の実践》

～テーマした国～	学習委員会の掲示	「世界を知ろう！ワールド給食」メニュー
2022年5月： 中華人民共和国	国旗、地理、歴史、通貨、言葉、ことわざ、世界遺産、食文化、芸術・音楽など学習委員が各個人で興味をもった内容について、パソコンで調べます。それを模造紙にまとめて校内に掲示。 (例) 中国語では、「手紙」はトイレットペーパー！	青椒肉絲、 ワンタンスープ
2022年7月： ルーマニア		チョルバ・デ・ ペリショアレ レモンサラダ
2022年10月： アメリカ合衆国		クラムチャウダー、 バッファローチキン
2022年12月： 大韓民国		三色ビビンバ、 わかめスープ
2023年1月： ウクライナ		ウクライナ風ボル シチ、人参ケーキ
2023年5月： タイ		ガパオライス
2023年7月： インド		キーマカレー、 ナン
2023年10月： キューバ		フリカセデポーヨ（鶏のトマト煮）、 ひよこ豆のフライ

3 | (月)

世界を知ろう！
ワールド給食

ご飯(麦)・牛乳

バッファローチキン

クラムチャウダー

グリーンサラダ

ハロウィンデザート

【図書委員会×読み聞かせボランティア「本を通した国際理解」】

上記のとりくみが浸透し始めると、図書委員や司書教諭からも活動に参加したいとの声が挙がった。テーマの国を共有し、地理、写真集、昔話、小説などの関連書籍を集め、図書室に入ってすぐのところにてデコレーションをして展示。多くの生徒が気軽にそれ



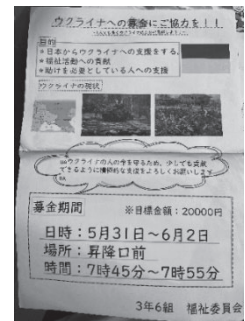
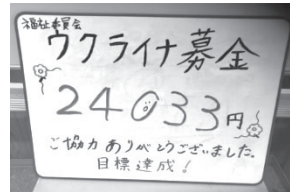
らの本を手にとって読んでいた。図書室利用や貸し出し数も増加した。さらに保護者の読み聞かせボランティアでも「国際理解」「平和」等に関連した本の読み聞かせを実施した。こうして本を通し、世界への扉を開き「世界市民への一歩」を踏み出していた。



【生徒会本部×福祉委員会「ウクライナ募金」】

ロシアのウクライナ侵攻に対して「関心の有無」「身近に感じる・感じない」等、認識に大きな差があった。関心があっても「ウクライナってどこ?」「私たちには、どうしようもないのではないか」と言う声も聞こえた。

そこで生徒会本部と福祉委員会が共同でウクライナ侵攻について昼の放送で伝え、支援を必要としている人を助けようと「募金活動」を呼びかけて実施。この「学ぶ・知る」→「関わる・行動する」とりくみを通して「自分事として世界の出来事を感じる生徒」「平和の大切さを実感する生徒」「同苦しようとする生徒」などの実態が見られるようになった。



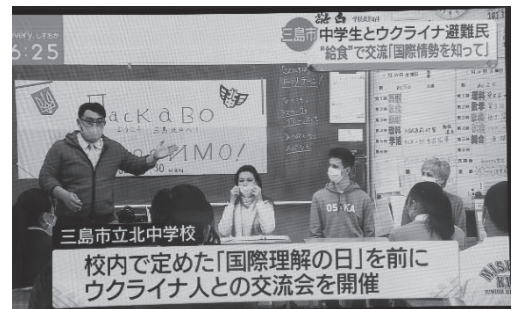
3 その他の実践

【百聞は一見にしかず！世界の人々と交流しよう「出前授業」の活用】

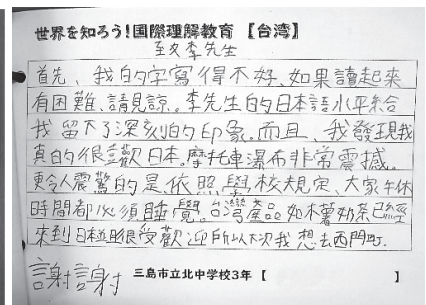
2023年1月、三島市国際交流室の出前授業「そよかせ学習」を通して市内在住のウクライナ出身の方とロシアの侵攻後、ウクライナから避難してきた中学生と「国際理解の日」に交流給食や質問会をした。実際に戦乱の渦中から避難してきた方のお話を直接聞き「世界平和」について考えるきっかけになった。

10月には「台湾」「イタリア」の方を講師に招き、それぞれの歴史や文化、学校の様子や若者の間で流行っているものなどを映像や実体験を通して学ぶ機会をもった。台湾の学校には30分の昼寝タイムがあることに驚いたり、一緒にイタリアのカンツォーネを歌ったりした。お礼状を書く際には、パソコンを駆使してその国の言語で書くなどの姿に“百聞は一見にしかず！”という感動を得た。

今後、三島の姉妹都市となっている台湾の中学生の訪問が決定。生徒の手で交流計画がすすめられている。

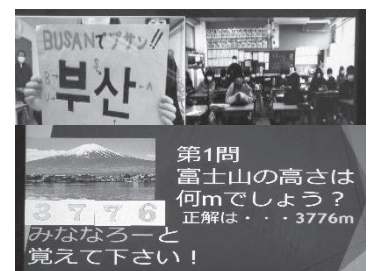


静岡第一 TV 「every しずおか」
2023年1月30日



【海外とオンライン交流】

韓国・釜山日本人学校とオンラインで交流授業を実施。お互いの街の紹介や日本との違いを聞いたり事前に質問を送り、質疑応答をしたりするなど活発な交流ができた。その他、海外転勤中の保護者、JICA 海外協力隊員などの協力で、教室にいながら今の世界とつながることができている。



私が実践している“ちょっと”できる「国際理解教育」



中学社会科のテスト問題の中に毎回2問程度「時事問題」を出題し、日頃からニュースを通し、社会や世界に興味・関心をもつようにする。



「学級通信」に時事的な話題や韓国釜山日本人学校での体験等、自分の国際体験を生徒に伝える。



8月:原爆投下、終戦記念日、3月:東京大空襲、12月:真珠湾攻撃など世界や平和に関する出来事を「朝の会」や「帰りの会」の話しの中で伝える。



世の中には多様な生き方や価値観があることを「道徳」「総合的な学習の時間」のキャリア教育で一緒に学んだり、考えたりする機会をもつ。



「ALT」や「海外での生活経験者」「海外に由来する生徒や保護者」から日本と異なる文化や価値観などの話を聞く。

4 活動の成果と課題

「北中国際理解の日」のとりくみは、自分の担当教科や担任するクラスでの実践に限らず、学年や学校全体（全校）を巻き込んで実践できることを大切にしたいと考えた。「“ちょっと”できる国際理解教育」のように、新しく特別なことをやるというより、通常の活動に「ひと工夫」や「連携（コラボレーション）」をすることでより多面的で広がりをもった活動となり、委員会活動の活性化や、多くの子どもたちにとって世界の出来事に興味や関心をもつ一助になったと思う。こうした実践を通して、折に触れ、生徒とともに活動していくことの有益さを実感した。

「課題」としては、以下のことが挙げられた。

- 生徒主体と言いながらも、こちらがイニシアティブをとって早くから活動の提案や段取りをしてしまった。
- 継続した活動をするには「国際理解教育」を教職員や生徒たちにも共通理解してもらい、熱量を上げていく必要性を感じた。
- 活動をマンネリ化させず、より広がりをもたせていく必要性を感じた。

◇ 2年間の研究をふり返って

「委員会活動から広がる国際理解教育」というテーマを意識して実践してきました。さらには、教職員の意識の変容や保護者の反応からも「家庭内の国際化意識」の高まりも感じられました。

教育の成果は、すぐには結果として現れませんが、こうした種まきがやがて21世紀の世界に生きる子どもたちの国際理解を深め、平和創出の担い手となる「世界市民育成」の大きな力となることを信じています。

2年間の研究をふり返って

1 「国際連帯と平和教育研究委員会」の押さえと研究内容

教育研究所は、1983年に「平和教育研究委員会」を立ち上げて以来、平和教育について研究実践を重ねてきました。2005年から国際連帯と平和教育研究委員会と名称を変え、「いつでも、どこでも、だれでもできる平和教育」を合言葉に、現場での教育実践に努めています。

平和教育と言うと、反戦平和教育というイメージが強いのですが、平和を広く解釈し、子どもや大人が安心して豊かに人間らしい生活ができる社会であることを願い、そのためには平和教育の教育実践はどうあったらよいかを考え研究をすすめてきました。

教育研究所が押さえる平和教育の中身を示し整理すると、下の図のようになります。

①反戦教育を主軸としたいわゆる平和教育

戦争の悲惨さや惨状、戦争が引き起こす重大な人権侵害や生命の危機等を学び、戦争は絶対に起こしてはならないという教育

平和教育

②もう一つの平和教育

学校や学級、地域社会では争いや対立が起こることを前提に、その争いや対立を暴力や力を使わないで平和的に解決する子どもを育てる教育

③国際連帯の教育

地球的問題群^{*1}（気候変動の問題、環境問題、食糧問題、飢餓と貧困問題、格差の問題等）を題材とし、その問題を自分ごととして認識し、問題の原因や解決策等を考え、国際連帯の重要性や必要性を学ぶ教育

*1 「地球的問題群」とは、本研究委員会の共同研究者である伊藤恭彦教授が提唱した言葉です。

2 実践と考察

7人の所員による2年間の授業実践の実績は、次のとおりです。

○道徳科、社会科

外国につながる児童が多く在籍する学校の実情を考え、道徳科の授業や社会科の「世界の国クイズ」を通して、外国の文化や人々の生活に関心を向けることの大切さの意識を育む実践でした。その意識は、子どもたちの活動により、他学級そして学校全体に広がっていきました。

○横断的な学習

所員の青年海外協力隊の経験を活かし、3学年、5つの教科・領域ですすめた実践は、教員の熱い思いが、確かな形として子どもたちに国際理解教育・平和教育が育まれていきました。紹介されている海外経験に関係なくできる実践は、皆さんにぜひ活用していただきたいです。

○総合的な学習の時間

子どもたちが多面的な視点での国際理解から、社会と自分の繋がりを考えていけるように、総合的な学習の時間の年間計画にそって計画的にすすめられた実践でした。効果的な出前講座の活用、講演された講師の方や資料も皆さんの参考になると思います。

○社会科

子どもたちは、産業から関係国とのつながりを考えるとともに、日本の良さを意識していきました。また、歴史上の出来事をSDGsの目標に当てはめ、日本の強みと課題をとらえ、

国際人としてのバランス感覚を養いました。子どもたちが生き生きと活動する姿が伝わってきます。

○外国語科

学級内の対話が苦手な子どもたちに対し、対話の対象を外国の方に設定し、自他を尊重する対話トレーニングを活用する実践でした。まず相手の話を傾聴し自分の気持ちを言語化する対話のルールが浸透し、子ども同士の関係が良好なものに変化していきました。

○学級活動

学級の生活で直面する課題に対し、ボルダールールという順位付けを通して、相手の考えを聞いて自分にとりいれていき、平和的に解決していく力を育む実践でした。培われた良いコミュニケーションが、日々の生活に活かされ、意欲的に課題にとりくむ姿がみられました。

○委員会活動

「地球市民の育成」をキーワードに、「子どもたちを主人公に」・「学校全体」・「継続して実践できる」の4つを視点にした、委員会活動の実践でした。所員の豊かな発想と経験が存分に活かされた実践は、自校から他校へ、そして地域へと大きく広がりました。

3 実践研究を通して見えてきたこと

(1) 指導者の熱い思いを子どもたちに伝える国際連帯と平和教育の実践を

「平和教育の実践」と言われると、「自分の教科では」「何を子どもたちに伝えたらいいのか」戸惑う方が多いと思います。所員の実践にみられるように、自分の担当している教科や分掌、日々の学級指導と、様々な場面に目を向け、こんな風にやってみてはどうか、これならおもしろいと指導者がまず興味や関心をもつことが一番です。そして、そこから指導者のセンスや工夫を重ね、子どもたちが生き生きととりくむことができる実践が生まれます。所報には、そんな実践が盛りだくさんです。

(2) それぞれの視点の先に平和教育を

所報を見ていただくと、他者理解・意識、国際連帯、SDGsを視点とした実践が多いように感じますが、最後は平和教育に繋がっています。子どもたちの置かれている環境は、コロナ禍後であっても関係性がまだまだ希薄で伸び伸びできていません。対話が苦手になっています。また、世界の状況も日々変化をしています。だからこそ、他者理解から国際連帯へ、またSDGsの視点を取り入れることが重要になります。人が関われば、争いや対立が生まれます。その時、子どもたちが暴力や力を使わないで平和的に解決できる意識や行動を身に付けていれば、それが平和への第一歩です。そして、平和教育が浸透している証拠です。

(3) 最後に

今、子どもたちをとりまく世界は、紛争・自然災害・異常気象等混とんとしていて先が見えません。だからこそ、誰もが安心して豊かな交流にあふれた生活ができる社会をめざしていかなくてはなりません。今後を担っていく子どもたちの未来が希望にあふれた明るい世界であるよう、「いつでも、どこでも、だれでもできる平和教育」の合言葉を胸に、さらに現場での教育実践を積み重ねていただけることを切に望みます。

2022～2023年度 国内外の情勢 抜粋

2022年 1月トンガで大規模噴火 2月ロシアによるウクライナ侵攻 9月台風15号
2023年 2月トルコ・シリア地震 5月新型コロナ5類へ 8月ハワイ大規模山火事
10月イスラエルによるガザ地区への攻撃
2024年 1月能登半島地震

国際連帯と平和教育研究委員会（2022～2023年度）

共同研究者

伊藤 恭彦（名古屋市立大学 教授）

加治 宏基（愛知大学 教授）

所 員

松山 侑樹（浜松教組）

關野 真理（田方支部）

山田 信彦（三島支部）

岩崎 智宏（駿東支部）

柳澤 佑介（志太支部）

金田あゆみ（小笠支部）

三宅 克樹（湖西支部）

事務局

内田いず美

福代 淳子 2022

宅見 真弓 2023

藪崎 哲郎

山田 清和 2023

安心して豊かな交流にあふれた生活ができる社会をめざして

～3つの視点による平和教育実践集～

編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「国際連帯と平和教育研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発行者／教育研究所運営委員長 赤池浩章

発行日／2024年2月



静岡県教育事業団体のサポート

～県内の児童・生徒，教職員，保護者の皆様に向けて～

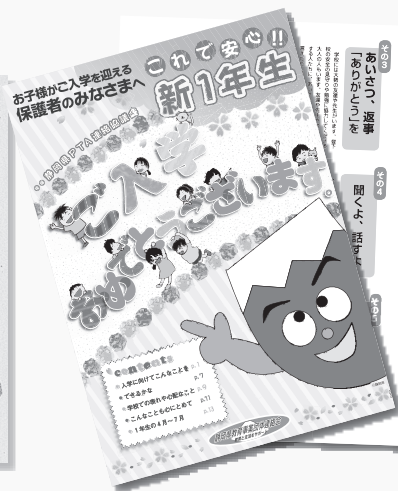
『これで安心!!新1年生』

後援：静岡県PTA連絡協議会

「新1年生をもつ保護者の皆様のご不安・ご心配が，少しでも小さくなったらいいな。」
「入学する子どもさんと家の方が一緒になってうきうきしながら入学準備ができたらいいな。」
「保護者と学校とが素敵につながるためのお役に立てたらいいな。」
こんな思いを込めて作成しました。

○保護者から届いたメッセージ○

この冊子で，自分ができていた事、やらなければいけない事がはっきりわかり、これから入学するにあたって不安がいっぱいでしたが、できる事からはじめようと思いました。まずは、「できるかな」を子どもと一緒にやってみようと思いました。とても具体的でわかりやすいので楽しみながらやってみようと思います。ずっと保存して時々読み返そうと思います。
(S市・Aさん)



『これで安心!!新1年生』への感想はこちらから

教育講演会



「教育講演会」は，静岡県下の教職員並びに教育関係者の皆様が知識と教養を高めるとともに，地域社会の文化の向上に寄与することを目的に，昭和50年から実施しています。

令和4年度には，各地区運営委員会の企画のもと，21会場で開催し（リモート開催を含む），約8,000名の小・中・高・特別支援学校の教職員や教育関係者の皆様にご聴講いただきました。

令和5年度の講演にご期待ください。（新型コロナウイルス感染拡大等で縮小せざるを得ない場合があることをご了承ください。）

静岡県教育事業団体



一般財団法人 静岡県教職員互助組合

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 2F TEL:054-254-3626
互助組合ホームページへは，



一般社団法人 静岡県出版文化会

静岡市駿河区曲金 5-5-38 (株)静岡教育出版社2F TEL:054-270-5800
出文ホームページへは，



株式会社 静岡教育出版社

静岡市駿河区曲金 5-5-38 TEL:054-281-8870
出版社ホームページへは，



静岡県教職員生活協同組合

静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL:054-282-2140
教職員生協ホームページへは，



静岡県学校生活協同組合連合会

静岡市駿河区登呂 6-14-27 TEL:054-282-2166
URL <http://www.kyousyokuin-seikyo.com/link/rengoukai/>



公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館 4F TEL:054-205-5130
静岡教弘ホームページへは，



地区を支える学校生活協同組合等

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 賀茂地区学校生活協同組合 | ☎0558-22-1115 |
| 田方地区学校生活協同組合 | ☎0558-76-8224 |
| 東豆地区学校生活協同組合 | ☎0557-37-8766 |
| 三島地区学校生活協同組合 | ☎055-981-0521 |
| 静岡県駿沼学校生活協同組合 | ☎055-921-0333 |
| 富士地区学校生活協同組合 | ☎0545-35-7272 |
| (有)静岡教育サービス(旧静岡地区学校生活協同組合) | ☎054-257-0701 |
| 志太地区学校生活協同組合 | ☎054-634-1166 |
| 榛原地区学校生活協同組合 | ☎0548-22-1355 |
| 小笠地区学校生活協同組合 | ☎0537-24-1617 |
| 磐田周智地区学校生活協同組合 | ☎0538-35-1830 |
| 浜松市学校生活協同組合 | ☎053-482-7241 |

<http://www.stu.jp/>



最後までお読みいただきありがとうございました。

この所報をお読みになったご意見・ご感想をお聞かせください。

皆さんからいただいたご意見・ご感想は、今後の研究活動や成果発信に生かします。

STU Institute of Educational Research
静岡県教職員組合立教育研究所

FAX: 054-255-5110